004-0379-1003-14

（無断転載を禁ず）

体験入学用 3級 簿記検定 合格テキスト 合格トレーニング

このたびは体験入学をご利用いただきありがとうございます。体験入学は、第１回講義にご参加いただけますが、このテキストでは第１回講義、第２回講義で学習する内容を掲載しています。ぜひ、次回（第２回）の講義内容もお見通しいただければと思います。

TAC 簿記検定講座

3級　学習進度表（基本講義）

3級　商業簿記

講義回	学習テーマ（商業簿記）	重要度
第1回	テーマ1　簿記の基礎知識	★
	テーマ2　日常の手続きⅠ	★★★
	テーマ3　日常の手続きⅡ（「いろいろな帳簿」まで）	★★★
第2回	テーマ3　日常の手続きⅡ（「試算表の作成」より）	★★★
	テーマ4　商品売買Ⅰ	★★★
	テーマ5　商品売買Ⅱ	★★★
第3回	テーマ6　現金	★★★
	テーマ7　当座預金	★★★
	テーマ8　小口現金	★★
第4回	テーマ9　手形Ⅰ	★★★
	テーマ10　手形Ⅱ	★★★
第5回	テーマ11　その他の期中取引Ⅰ	★★
	テーマ12　その他の期中取引Ⅱ	★★
第6回	テーマ13　その他の期中取引Ⅲ	★★★
	テーマ14　試算表の作成Ⅰ	★★★
	テーマ15　試算表の作成Ⅱ	★★★
第7回	テーマ16　決算の手続きⅠ	★★
	テーマ17　決算の手続きⅡ	★★★
第8回	テーマ18　決算の手続きⅢ	★★★
	テーマ19　決算の手続きⅣ	★★★
第9回	テーマ20　決算の手続きⅤ	★★★
第10回	テーマ21　決算の手続きⅥ	★★
	テーマ22　伝票式会計	★★

体験入学用

3級 合格テキスト

簿記検定

01 Theme 簿記の基礎

Check ここでは，簿記の目的と簿記の５要素と財務諸表の基礎について学習します。特に簿記の５要素はもっとも重要なので，十分理解してください。

Date.1 ／　　Date.2 ／　　Date.3 ／

1 簿記とは

1. 簿記とは

簿記とは，「帳簿記入」という言葉からつくられた造語といわれ，帳簿に記入するためのルールを定めたものです。

会社や商店（＝企業）では，その活動から生じるいろいろな事柄を整然と記録しなければならないので，簿記は企業の活動を支える重要な役割を果たしています。

現在，簿記といえば帳簿に記入するだけでなく，「帳簿に記録し，これを報告する」という一連の手続きまでを指しています。

ここで報告するために作成される報告書のことを財務諸表（Financial Statement：F/S）といいます。

2. いろいろな簿記

企業にはいろいろな業種があります。それらの業種に応じて用いられる簿記にもいろいろと種類があります。商品売買業やサービス業などで用いられる簿記を商業簿記，テレビや自動車を造る製造業などで用いられる簿記を工業簿記といいます。

このテキストでは，商業簿記を学習していきます。

3. 簿記の目的

簿記は会社や商店の日常的な活動を記録しますが，最終的には次のような報告書にまとめるのがその目的です。

⑴ 貸借対照表の作成（財政状態を明らかにすること）

会社や商店は，所有する土地・建物などがどれだけあるか，また，どれだけの借金があるかを企業を取り巻くさまざまな人（利害関係者という）に報告しなければなりません。このために作成されるものが貸借対照表（Balance Sheet：B/S）であり，会社や商店の資産や借金のバランスのことを財政状態といいます。

⑵ 損益計算書の作成（経営成績を明らかにすること）

会社や商店は，財政状態を明らかにするとともに，どれだけもうけが出たか，または損をしたかという状況（経営成績という）を利害関係者に明らかにしなければなりません。このために作成されるのが損益計算書（Profit and Loss Statement：P/L）という報告書です。

★supplement

利害関係者とは

簿記は，あらゆる利害関係者に対して役立つ情報を提供します。

❶利害関係者とは

企業には個人商店や株式会社などさまざまな形態があり，規模が大きくなればなるほど，企業の財政状態や経営成績に関心をもっている人々が増えていきます。

このような人々のことを利害関係者といいます。

❷簿記と利害関係者

簿記によって会社や商店の財政状態や経営成績を明らかにすれば，次のように，あらゆる利害関係者に役立つ情報を提供することができます。

経営者……経営者はこれまでの活動を振り返って，将来の新しい経営方針を立案することができます。

債権者……銀行などの債権者は，会社や商店に対して融資を決定するときに，その企業の信用状態を判断することができます。

その他……国や地方公共団体は，会社や商店に対して税金を割り当てるときに，その税額を決定することができます。

基本例題01

□check!

次の文章の（　　）内に適切な語句を記入しなさい。

企業の活動を帳簿に記録して報告書を作成することを（ ① ）といい，商品売買業やサービス業で行われる（ ① ）を（ ② ）といいます。また，（ ① ）の目的は報告書を作成して，企業の財政状態や（ ③ ）を明らかにすることです。（ ① ）は，あらゆる（ ④ ）に対して，役立つ情報を提供するため，社会的にきわめて重要な役割を果たしています。

①（　　）②（　　）③（　　）④（　　）

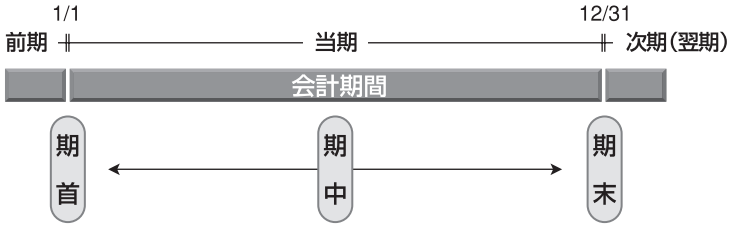
2 簿記と会計期間

企業は継続して活動を行うため，通常１年ごとに区切りをつけて，報告書を作成し，財政状態や経営成績を明らかにします。この定期的に区切られた期間を会計期間といいます。

会計期間のスタートを期首，ゴールを期末，期首と期末の間を期中といいます。

また，現在の会計期間を当期，一つ前の会計期間を前期，一つ後の会計期間を次期または翌期といいます。

３級は個人商店を前提とするため，暦にしたがって１月１日から12月31日までが一つの会計期間となります。なお，会社などの法人企業は，４月１日から翌年の３月31日など任意の期間を定めることができます。



3 簿記の５要素と財務諸表

簿記では，財政状態や経営成績について，財政状態を示すものとして資産・負債・純資産（資本），経営成績を示すものとして収益・費用の５つの要素に分類し，貸借対照表や損益計算書などの財務諸表に記載します。

1. 貸借対照表

⑴ 貸借対照表とは

企業の期末における財政状態を明らかにした報告書を，貸借対照表（B/S）といいます。

貸　借　対　照　表

東京商店　　平成×１年12月31日　　（単位：円）

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	50,000	買掛金	200,000
貸付金	150,000	借入金	300,000
売掛金	80,000	資本金	630,000
備品	200,000		
車両運搬具	300,000		
建物	200,000		
土地	150,000		
	1,130,000		1,130,000

運用形態　調達源泉

（注）期首資本金は500,000円である。

貸借対照表は，資金をどこから得たかという調達源泉と，その資金をどのように使っているかという運用形態を示しています。

調達源泉（資金の出どころ）➡ 負債，純資産（資本）
運用形態（資金の使い途（みち））➡ 資産

⑵ 資産とは

資産とは，企業の活動に役立つもの（いわゆる財産）をいい，企業が所有する土地・建物など有形のものと，貸付金のような無形のものに分けられます。

たとえば，店舗や倉庫などの建物，商品配達用のトラックなど，商売をするうえで長く利用されるものが有形の資産です。

また，お金を貸し付けたり，代金後払いで商品を販売するなど，将来，現金で回収できるという権利が無形の資産です。

このような資産の増減を記録するときは，「資産」と一括するのではなく，一つ一つその資産の内容に合わせて，建物，貸付金などと名前をつけます。これを勘定科目といいます。以下，資産の主な勘定科目を示しておきます。

現　　金：紙幣や硬貨などの通貨
繰 越 商 品：期首（期末）在庫商品の原価
貸　付　金：取引先などへ現金を貸し付けた際に生じる権利（債権）
売　掛　金：代金後払いの約束で商品などを販売した際に生じる権利（債権）
備　　品：商売のために備えてある棚，事務机，パソコン，コピー機などの物品
車両運搬具：商品配達用のトラックやオートバイなどの運搬具
建　　物：商売のための店舗や倉庫などの建築物
土　　地：店舗，倉庫などの敷地や駐車場の用地

⑶ 負債とは

負債とは，将来，現金などで支払わなければならない義務（債務）をいいます。

具体的には，銀行からの借入金や代金後払いの約束で購入した際に生じる支払い義務をいいます。

たとえば，商売上の資金が不足し，銀行から現金などを借り入れたとき，この借り入れた資金は返済期日までに返済しなければならないので，負債となります。以下，負債の主な勘定科目を示しておきます。

借　入　金：銀行などから資金を借り入れた際に生じる返済義務（債務）
買　掛　金：代金後払いの約束で商品などを購入した際に生じる支払い義務（債務）

⑷ 純資産（資本）とは

純資産（資本）とは，資産の総額から負債の総額を差し引いたものをいいます。

その内訳は，商売をはじめたときの出資額（元入れ）と，その後のもうけとして増えた分です。このことから，負債のことを他人資本というのに対して，純資産（資本）を自己資本ということもあります。

なお，個人商店の純資産（資本）に属する勘定科目は資本金のみです。

＊　貸借対照表では期首の資本金と区別する意見から，もうけを「当期純利益」と別表示することもあります。

⑸　貸借対照表に関係する算式

①　純資産（資本）等式

前述したように，純資産（資本）は資産の総額から負債の総額を差し引いたものなので，次のような算式をつくることができます。この算式を純資産（資本）等式といいます。

資産の総額 － 負債の総額 ＝ 純資産(資本)の総額

②　貸借対照表等式

純資産（資本）等式のうち，負債の位置を置き換えることで次のような算式が求められます。これを貸借対照表等式といいます。

資産の総額 ＝ 負債の総額 ＋ 純資産(資本)の総額

これらの等式は，貸借対照表の左側の総額と右側の総額がつねに等しい，というルールから導き出されるものです。これを「貸借平均の原理」といいます。

2. 損益計算書

⑴　損益計算書とは

企業の一会計期間における経営成績を明らかにした報告書を，損益計算書（P/L）といいます。

損　益　計　算　書

東京商店　平成×1年1月1日から平成×1年12月31日まで（単位：円）

費　　用	金　　額	収　　益	金　　額
売上原価	240,000	売上高	390,000
支払手数料	25,000	受取手数料	20,000
支払利息	15,000		
当期純利益	130,000		
	410,000		410,000

損益計算書は，一会計期間の間に発生した収益と費用を示しますが，この差額を当期純利益（または当期純損失）といい，損益計算書では朱記されます。

⑵　収益とは

収益とは，商品を販売したり，また取引の仲介をするなどして得た収入で，純資産（資本）を増やす原因となるものをいいます。以下，収益の主な勘定科目を示しておきます。

売　　上：商品の販売高（売価）
受取手数料：取引の仲介などにより得たマージン
受 取 利 息：預金の利子や貸付金の利子

(3) 費用とは

費用とは，店舗の家賃や広告費など，収益を得るために費やされたものであり，純資産（資本）を減らす原因となるものをいいます。以下，費用の主な勘定科目を示しておきます。

仕　　入：商品の仕入高（原価）
支 払 家 賃：店舗や倉庫などの賃借料
給　　料：雇い入れている従業員に支払った給料
支払手数料：取引の仲介などにより支払った手数料
支 払 利 息：銀行などから借り入れた借入金にともなう利子

なお，費用には現金などの支払いがともなわないものもありますが，詳しくは後述します。

(4) 損益計算書に関係する算式

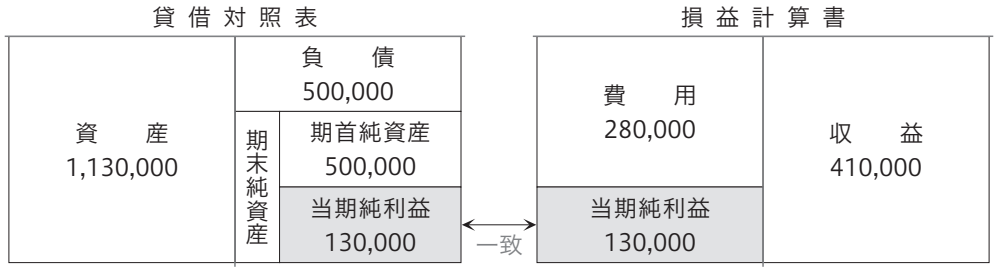
損益計算書もまた，貸借対照表と同じように右側と左側の総額は等しい，という貸借平均の原理にしたがって，次のような算式をつくることができます。

費　用 ＋ 当期純利益 ＝ 収　益

（注）損益計算書，貸借対照表については，「テーマ21」で詳しく学習します。

(5) 損益計算書と貸借対照表の関係

損益計算書で計算された当期純損益と，貸借対照表で計算された当期純損益は必ず一致します。これは企業の活動について，現金や売掛金などの債権，買掛金などの債務のほかに，仕入れや売上げなどから生じる変動とその原因を貸借平均の原理によって組織的に記録・計算しているためです。このような記録・計算をする簿記を複式簿記といいます。



★supplement

純損益の計算

会社がいくらもうけたか，という純損益の計算方法には，財産法（ざいさんほう）と損益法（そんえきほう）の２つがあります。

❶財産法による純損益の計算

財産法とは，期末純資産（資本）の額から期首純資産（資本）の額を差し引くことで，一会計期間の損益を求める方法です。この方法は，もうけていればそれだけ現金などの資産が増え，損をしていればそれだけ現金などの資産が減っているという考えにもとづいています。

期末純資産(資本)の額 － 期首純資産(資本)の額 ＝ 当期純利益(マイナスのときは当期純損失)

■設例

次の資料により，当期の純損益を求めなさい。

	期首資産	期首負債	期首純資産	期末資産	期末負債	期末純資産	純損益
(1)	80,000円	30,000円	50,000円	85,000円	30,000円	55,000円	？　円
(2)	100,000円	68,000円	32,000円	98,000円	68,000円	？　円	？　円

【解答】

(1)　期末純資産（資本）55,000円－期首純資産（資本）50,000円＝当期純利益5,000円

(2)　期末資産98,000円－期末負債68,000円＝期末純資産（資本）30,000円
期末純資産（資本）30,000円－期首純資産（資本）32,000円＝当期純損失△2,000円

❷損益法による純損益の計算

純資産（資本）は，収益による資産などの増加と費用による資産などの減少が原因で増減します。損益法とは，その考え方を用いて，その増加原因である収益の総額と減少原因である費用の総額とにより，純損益を求める方法です。

収益の総額 － 費用の総額 ＝ 当期純利益（マイナスのときは当期純損失）

なお，純資産（資本）の増減の結果から求める財産法と，その原因から求める損益法の計算結果は必ず一致します。

■設例

次の資料により，当期の純損益を求めなさい。

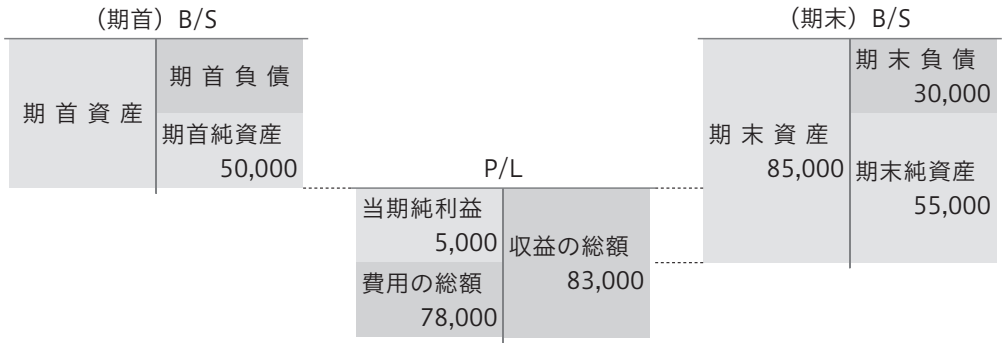
期首純資産	期末資産	期末負債	期末純資産	収益の総額	費用の総額
50,000円	85,000円	30,000円	55,000円	83,000円	78,000円

【解答】

期末純資産（資本）55,000円－期首純資産（資本）50,000円＝当期純利益5,000円

または

収益の総額83,000円－費用の総額78,000円＝当期純利益5,000円



02 Theme 日常の手続き（Ⅰ）

Check ここでは，簿記上の取引から，学習上でもっとも重要な仕訳について学習します。

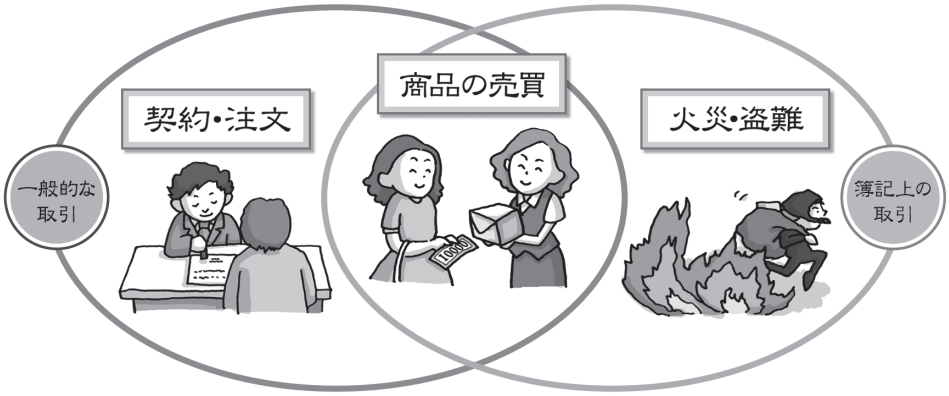
Date.1 ／　　Date.2 ／　　Date.3 ／

1 簿記上の取引

簿記は会社や商店の活動を記録しますが，企業が行う活動にはさまざまな事柄があります。これを取引とよびますが，簿記では，そのすべてを記録するのではなく，簿記上の取引だけを記録します。

1. 簿記上の取引

簿記上の取引とは，企業の資産・負債・純資産（資本）が増減する取引をいいます。
では，一般にいう取引と簿記上の取引とでは，どこが違うかみることにしましょう。



(1) 簿記上の取引となる一般的な取引

商品の売買などは一般でも取引といいますが，会社や商店の資産・負債・純資産（資本）が増減するので，簿記上の取引となります。

(2) 簿記上の取引ではない一般的な取引

建物や土地を借りる契約や，仕入先に商品を電話で注文するなど，契約や口約束をするだけでは資産・負債・純資産（資本）が増減しないので，簿記上の取引ではありません。

(3) 簿記上の取引だが，一般的には取引といわないもの

現金や商品が盗まれたり，火災により建物が焼失するなど，盗難や災害が起これば会社や商店の資産・負債・純資産（資本）が増減するので，簿記上の取引となります。

基本例題02

□check!

下記の⑴～⑷のうち簿記上の取引にならないものを番号で答えなさい。

⑴　１カ月後に現金100,000円を借り入れる契約をした。
⑵　地震により商品50,000円が破損した。
⑶　店の現金のうち30,000円が紛失した。
⑷　従業員を１カ月250,000円の給料で雇い入れた。

2 勘　定

1. 勘定とは

勘定とは，取引を記録する道具であり，簿記の５要素について，その増加（発生）と減少（消滅）を左右に書き分けることで，プラス・マイナスを表します。

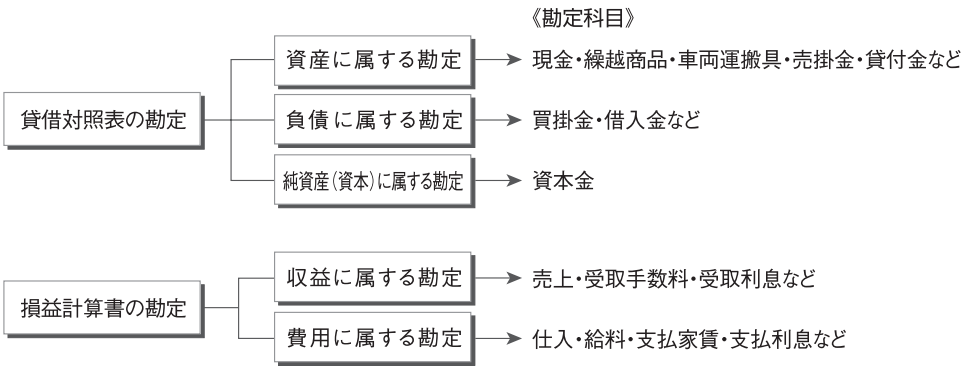
現金勘定を例にとると，現金の増加（入金）は左側，現金の減少（出金）は右側に書くことで，これを表します。なお，勘定の左側を借方（かりかた），右側を貸方（かしかた）といいます。

現　　金	
増　加 （入　金）	減　少 （出　金）
借　方	貸　方

（注）学習上は略式の勘定を用います。これをＴ字勘定またはＴフォームといいます。

2. 勘定科目とは

勘定につけた名前を勘定科目（かんじょうかもく）といいます。勘定は，資産・負債・純資産（資本）・収益・費用のそれぞれについてさらに細かく分け，それぞれに名称をつけます。たとえば，現金の増減を記録する勘定には「現金」という名前＝勘定科目をつけます。



なお，勘定に勘定科目をつけたものを勘定口座（かんじょうこうざ）といいます。これは取引を記録する場所であり，一つ一つが記録・計算の単位となります。

3. 勘定記入の法則

５要素の各勘定への記入は，資産，負債，純資産（資本）さらに収益，費用に属する勘定ごとにその増加（発生）と減少（消滅）をどちらに書くか，ということが決められています。

⑴ 資産に属する勘定

資産に属する勘定は，増加を借方（左側）に，減少を貸方（右側）へ記入します。

増加分から減少分を差し引いた残りを，貸借対照表の借方に記入します。

資産に属する勘定

増　加	減　少

⑵ 負債に属する勘定

負債に属する勘定は，増加を貸方（右側）に，減少を借方（左側）へ記入します。

増加分から減少分を差し引いた残りを，貸借対照表の貸方に記入します。

負債に属する勘定

減　少	増　加

⑶ 純資産（資本）に属する勘定

純資産（資本）に属する勘定は，増加を貸方（右側）に，減少を借方（左側）へ記入します。

増加分から減少分を差し引いた残りを，貸借対照表の貸方に記入します。

純資産（資本）に属する勘定

減　少	増　加

⑷ 収益に属する勘定

収益に属する勘定は，発生を貸方（右側）に，消滅を借方（左側）へ記入します。

発生分から消滅分を差し引いた残りを，損益計算書の貸方に記入します。なお，消滅とは，一度発生した収益が取り消されることをいいますが，一般的には少ないのであまり考えなくてもよいでしょう。

収益に属する勘定

（消　滅）	発　生

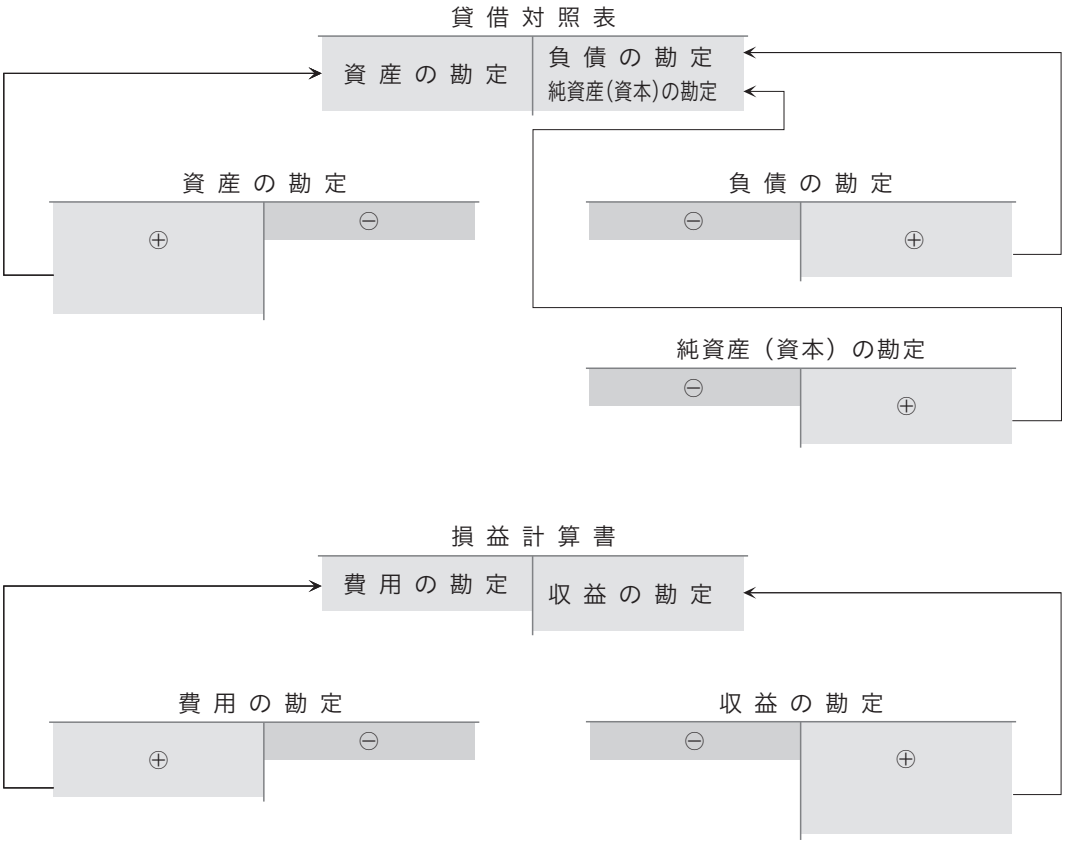
⑸ 費用に属する勘定

費用に属する勘定は，発生を借方（左側）に，消滅を貸方（右側）へ記入します。

発生分から消滅分を差し引いた残りを，損益計算書の借方に記入します。なお，消滅とは，一度発生した費用が取り消されることをいいますが，一般的には少ないのであまり考えなくてもよいでしょう。

費用に属する勘定

発　生	（消　滅）



ここがPOINT

資産，負債，純資産（資本），収益，費用のそれぞれの勘定の増加する側は，貸借対照表と損益計算書のフォームで覚えておくこと。

3 仕　訳

取引は勘定口座に記入されますが，日記やメモとは違うので，文章で書くことはできません。ここでは，取引を勘定に記入するために用いられる「仕訳」という手続きについて学習します。

1. 仕訳とは

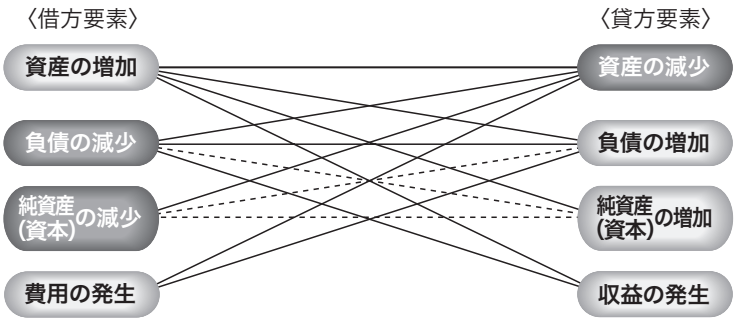
仕訳とは，取引を各勘定口座に記入するために，取引を借方要素と貸方要素に分ける一連の手続きをいいます。

仕訳は，簿記を学習するうえで基本であり，もっとも重要な手続きです。

2. 取引の８要素

簿記上の取引は，次に示す借方要素と貸方要素の結びつきにより，すべて整理することができます。なお，収益と費用の消滅は，一般的な取引ではないので，あまり考えなくてもよいでしょう。

〈取引の８要素〉



（注）点線の結合となる取引は，まれにしか生じません。

取引は，上の図の８つの要素の結びつきで整理することができるため，これを取引の８要素といいます。

なお，借方要素と借方要素，貸方要素と貸方要素が結びつくことはありません。

借方要素と貸方要素が結びつく代表例は次のとおりです。

資産の増加
- 資産の減少：手許の現金を銀行の預金口座に預け入れた。
- 負債の増加：銀行から現金を借り入れた。
- 純資産（資本）の増加：現金を元入れし，開業した。
- 収益の発生：取引の仲介を行い，手数料を現金で受け取った。

負債の減少
- 資産の減少：借入金を現金で返済した。
- 負債の増加：買掛金を手形（返済を約束した証書）で支払った。

費用の発生
- 資産の減少：広告費を現金で支払った。
- 負債の増加：取引の仲介をしてもらい，手数料は後で支払うこととした。

3. 仕訳の仕方

仕訳は，次の手順にしたがって行います。

⑴ ５要素の選択

発生した取引が５要素（資産，負債，純資産（資本），収益，費用）のうちどれに関係する取引かを判断し，選択します。このとき，必ず原因と結果という視点から選択してください。

⑵ 借方と貸方の決定（増減の判断）

⑴で選択した５要素の増減を判断します。その結果，借方要素と貸方要素の結びつきが決まります。取引は，借方要素と貸方要素の結びつきにより整理できるので，慣れないうちは，前記の組み合わせの図で確認してください。

⑶ 勘定口座の借方・貸方への記入

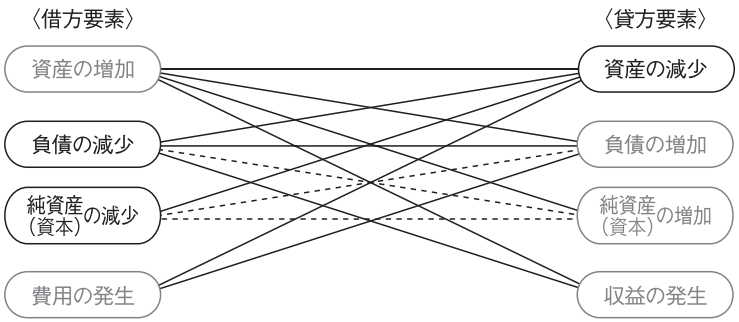
勘定口座に記入するために具体的な勘定科目を決め，借方要素の勘定は借方，貸方要素の勘定は貸方に記入します。

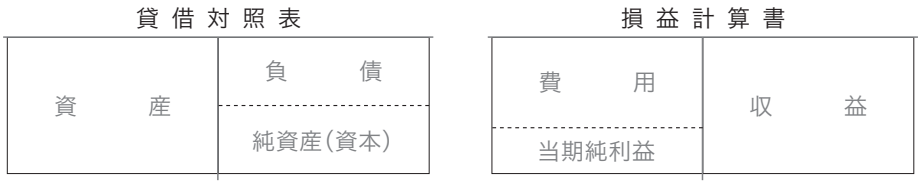
⑷ 金額の決定

最後に各勘定に記入する金額を決めますが，このとき借方と貸方の金額合計は，必ず一致します（貸借平均の原理）。

ここがPOINT

取引の８要素のうち，増加は貸借対照表や損益計算書の記載位置と一致するので，まず増加側を覚えるとよい。



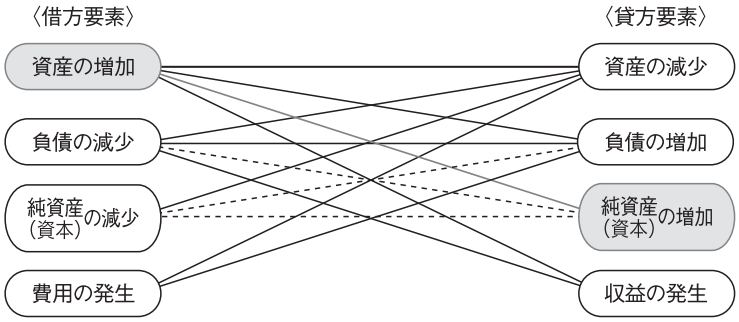


設例 2-1

次の取引を仕訳しなさい。

取引例 1	現金 1,000 円を元入れして開業した。 5 要素のうち必ず 2 つ以上を選択
5 要素の選択	結　果：資産（現金）　　原　因：純資産（資本金） ⇩ 取引の 8 要素にしたがって　⇩
借方と貸方の決定	借方要素：資産の増加　　貸方要素：純資産の増加 ⇩ おのおのの勘定の借方と貸方へ　⇩
借方・貸方への記入	現金勘定の借方へ記入　　資本金勘定の貸方へ記入 ⇩ 貸借は必ずバランスする　⇩
金額の決定	現金勘定 1,000 円　　資本金勘定 1,000 円 ⇩　⇩
仕訳	（現　金）　1,000　　（資 本 金）　1,000

〈取引の 8 要素〉



なお，仕訳は学習上，次のように示されることもあります。

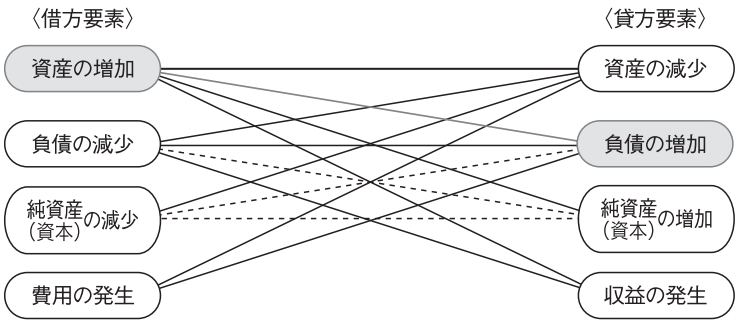
(借)現　　金　　1,000　　(貸)資　本　金　　1,000

設例 2-2

次の取引を仕訳しなさい。

取引例 2	現金 200 円を銀行から借り入れた。
	５要素のうち必ず２つ以上を選択
５要素の選択	結　果：資産（現金）　　原　因：負債（借入金）
	⇩ 取引の８要素にしたがって　⇩
借方と貸方の決定	借方要素：資産の増加　　貸方要素：負債の増加
	⇩ おのおのの勘定の借方と貸方へ　⇩
借方・貸方への記入	現金勘定の借方へ記入　　借入金勘定の貸方へ記入
	⇩ 貸借は必ずバランスする　⇩
金額の決定	現金勘定 200 円　　借入金勘定 200 円
	⇩　⇩
仕訳	（現　金）　200　　（借 入 金）　200

〈取引の８要素〉



なお，仕訳は学習上，次のように示されることもあります。

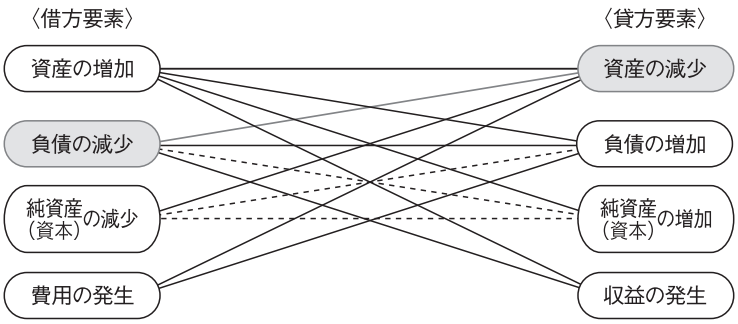
(借)現　　金　　200　　(貸)借　入　金　　200

設例 2-3

次の取引を仕訳しなさい。

取引例 3	借入金 50 円を現金で返済した。 5 要素のうち必ず 2 つ以上を選択
5 要素の選択	原　因:負債（借入金）　結　果：資産（現金） ⇩ 取引の 8 要素にしたがって　⇩
借方と貸方の決定	借方要素：負債の減少　貸方要素：資産の減少 ⇩ おのおのの勘定の借方と貸方へ　⇩
借方・貸方への記入	借入金勘定の借方へ記入　現金勘定の貸方へ記入 ⇩ 貸借は必ずバランスする　⇩
金額の決定	借入金勘定 50 円　現金勘定 50 円 ⇩　⇩
仕訳	（借 入 金）　50　（現　金）　50

〈取引の 8 要素〉



なお，仕訳は学習上，次のように示されることもあります。

(借)借　入　金　50　(貸)現　金　50

基本例題03

□check!

次の一連の取引について仕訳しなさい。

4/ 1　現金 1,000 円を元入れして開業した。
4/10　現金 200 円を銀行から借り入れた。
4/15　借入金 50 円を現金で返済した。

設例 2-4

次の取引を仕訳しなさい。

取引例 4　家賃 120 円と利息 10 円を現金で支払った。

5 要素のうち必ず 2 つ以上を選択

5 要素の選択　原　因：費用（支払家賃）　結　果：資産（現金）
費用（支払利息）

⇩ 取引の 8 要素にしたがって

借方と貸方の決定　借方要素：費用の発生　貸方要素：資産の減少
費用の発生

⇩ おのおのの勘定の借方と貸方に

借方・貸方への記入　支払家賃勘定の借方へ記入　現金勘定の貸方へ記入
支払利息勘定の借方へ記入

⇩ 貸借は必ずバランスする

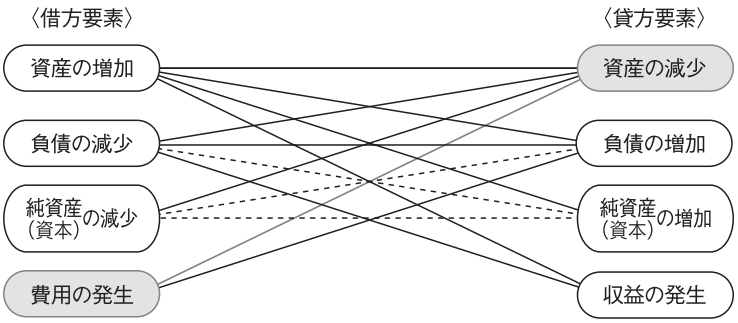
金額の決定　支払家賃勘定 120 円　現金勘定 130 円
支払利息勘定　10 円

⇩

仕訳

（支払家賃）	120	（現　金）	130
（支払利息）	10		

〈取引の 8 要素〉



なお，仕訳は学習上，次のように示されることもあります。

(借)支払家賃	120	(貸)現　金	130
支払利息	10		

03 Theme 日常の手続き（Ⅱ）

Check ここでは，帳簿の体系や帳簿の記入方法について学習します。

Date.1　／　Date.2　／　Date.3　／

1 転　記

勘定口座への記入は，取引を仕訳し，この仕訳を書き移すことによって行います。勘定口座に書き移すことを，転記（てんき）といいます。

(1) 転記のルール（原則）

仕訳の借方は勘定科目と同じ勘定（口座）の借方に，また，仕訳の貸方は勘定科目と同じ勘定（口座）の貸方に，日付，相手科目，金額を書き移します。

○　○　勘　定

日付	相手科目	金額	日付	相手科目	金額

4月1日　（現　　金）　1,000　（資　本　金）　1,000

①　②

現　金

4／1	資本金	1,000			

②

資　本　金

			4／1	現　金	1,000

③

〈記入上の注意〉

① 仕訳で借方にある勘定は，その勘定口座の借方に金額を記入します。

② この勘定がなぜ増加（または減少）したかを示すために，仕訳の相手科目（この場合，現金からみた資本金）を書きます。

③ 仕訳で貸方にある勘定も同様に，その勘定口座の貸方に金額を記入し，仕訳の相手科目（この場合，資本金からみた現金）を書きます。

なお，日付を忘れずに記入してください。

(2) 転記のルール（例外）

相手科目が2つ以上ある場合には，相手科目を複数記入する代わりに諸口（しょくち）とします。そのほかは原則どおりです。

4月25日　（支　払　家　賃）　120　（現　　金）　130
　　（支　払　利　息）　10

支　払　家　賃

4／25	現　金	120			

支　払　利　息

4／25	現　金	10			

現　金

4／1	資本金	1,000	4／25	諸　口	130

相手科目が2つ以上のとき

基本例題04

□check!

次に示す仕訳を転記しなさい。

4／1	(現　　金)	1,000		(資　本　金)	1,000
10	(現　　金)	200		(借　入　金)	200
15	(借　入　金)	50		(現　　金)	50
25	(支 払 家 賃)	120		(現　　金)	130
	(支 払 利 息)	10			

現　　金

借　入　金

支 払 利 息

資　本　金

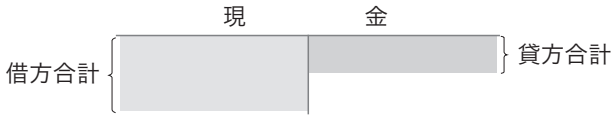
支 払 家 賃

2 合計・残高とは

ここでは合計と残高の意味を確認します。これから頻繁に登場する言葉なので，しっかり理解してください。

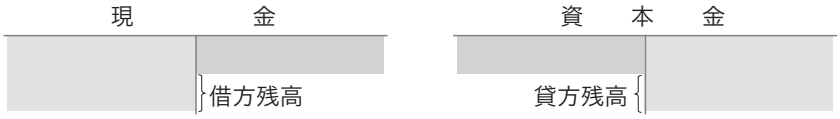
(1) 合計とは

合計とは，勘定の借方・貸方に記入された金額の合計額をいい，借方に記入された金額の合計額を借方合計（かりかたごうけい），貸方に記入された金額の合計額を貸方合計（かしかたごうけい）といいます。



(2) 残高とは

残高とは，勘定の借方合計と貸方合計の差額をいい，借方に生じた残高を借方残高（かりかたざんだか），貸方に生じた残高を貸方残高（かしかたざんだか）といいます。



3 勘定の締め切り

期末になると会計期間ごとに勘定の記録を整理して，帳簿を締め切り，当期と次期の区切りをつけます。ここでは，資産・負債・純資産（資本）の諸勘定の締め切りを説明します。

1．借方残高の場合

資産に属する勘定は，残高が借方に生じますが，貸方に「次期繰越」と朱記（またはカッコ書き）し，借方と貸方の合計金額を一致させて締め切ります。これを繰越記入といい，次に翌期首の日付で借方に「前期繰越」と記入し，残高を借方に戻します。これを開始記入といい，繰越記入と同時に行います。

なお，月次の段階で締め切る場合，次期繰越は「次月繰越」，前期繰越は「前月繰越」となります。

以下，現金勘定を例に示しておきます。

現　　金

1/ 1	資本金	400	3/23	仕入	100
2/19	借入金	200	6/21	借入金	50
4/18	諸口	150	8/ 6	仕入	250
10/20	諸口	140	12/31	次期繰越	500
11/15	受取手数料	10			
		900			900
1/ 1	前期繰越	500			

合計線

締切線

＊　貸借の記入した行数が違うときは，余白線を引きます。

なお，検定試験問題では（　　）をつけるかまたは太字にすることで，朱記を表しています。以下に（　　）の例を示しておきます。

現　　金

1/ 1	資本金	400	3/23	仕入	100
2/19	借入金	200	6/21	借入金	50
4/18	諸口	150	8/ 6	仕入	250
10/20	諸口	140	(12/31)	(次期繰越)	(500)
11/15	受取手数料	10			
		900			900
1/ 1	前期繰越	500			

2. 貸方残高の場合

負債・純資産（資本）に属する勘定は，残高が貸方に生じますが，借方に「次期繰越」と朱記（またはカッコ書き）し，借方と貸方の合計金額を一致させて締め切ります。次に翌期首の日付で貸方に「前期繰越」と記入し，残高を貸方に戻します。

借　入　金

6/21	現　金	50	2/19	現　金	200
12/31	次期繰越	150			
		200			200
			1/1	前期繰越	150

なお，１行しか記入がないときは，次のように締め切ります。

借　入　金

12/31	次期繰越	200	2/19	現　金	200
			1/1	前期繰越	200

＊　１行しか記入がないときは合計線を引きません。

coffee break

帳簿のはじめ

古代ローマでは，ワックスを塗った「ロウ塗板」をいくつか結びつけたものを帳簿として使用していました。これをコーデックスといい，ラテン語で木の幹，木片を意味します。

その後，帳簿の素材は羊皮紙（パーチメント），さらにパピルス・紙へと変わっていきます。板の帳簿では運ぶのが大変だったでしょうね。

ルカ・パチオリが刊行した『ズンマ』では，元帳は帳簿の見開き１ページの左面と右面を，それぞれ借方，貸方とすると解説されており，19世紀までこの方式が続いていたようです。

昔，紙は大切なものだったはずですが，ずいぶん贅沢（ぜいたく）な使い方をしていたようですね。

4 いろいろな帳簿

正式には仕訳や転記は，帳簿上で行う手続きです。どんな帳簿があるかみることにしましょう。

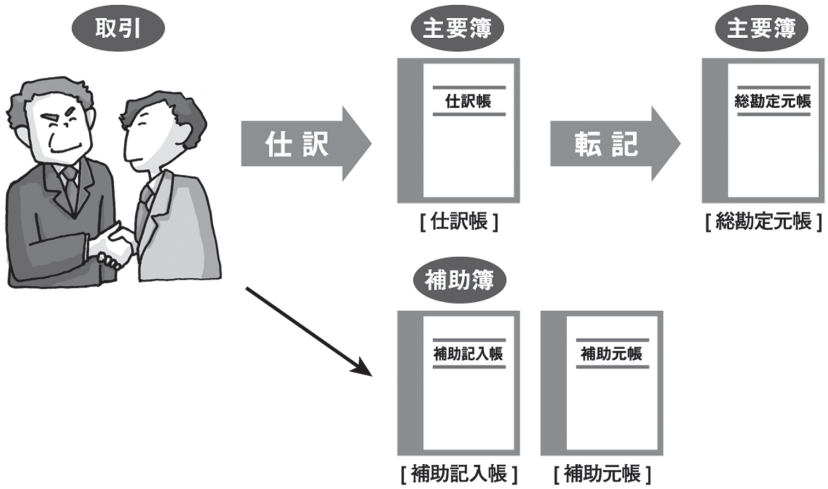
1. 主要簿

(1) 仕訳帳

すべての取引をその発生順（日付順）に記録する帳簿を仕訳帳（しわけちょう）といい，仕訳はこの帳簿上で行われます。

(2) 総勘定元帳

勘定科目ごとに設けられる勘定口座を一つにまとめた帳簿を総勘定元帳（そうかんじょうもとちょう）といい，仕訳帳とあわせて主要簿とよばれます。



2. 補助簿

(1) 補助記入帳

特定の取引についてその明細を記録する帳簿を補助記入帳といい，現金出納帳などがあります。

(2) 補助元帳

特定の勘定または事柄について記録を行う帳簿を補助元帳といい，売掛金元帳（得意先元帳）などがあります。

★supplement

仕訳帳と総勘定元帳

❶仕訳帳

仕訳帳は，すべての取引をその発生順に仕訳して記録する帳簿です。記入例を示すと次のとおりです。

①　②　④

仕　訳　帳　　1

平成×1年		摘　要	元丁	借　方	貸　方
4	1	(現　金)		5,000	
		(資　本　金)			5,000
③		現金を元入れして開業			
⑥	3	(仕　入)　諸　口		800	
		(現　金)			200
⑤		(買　掛　金)		⑦	600
		A商店より甲商品購入			
	10	諸　口　(売　上)			1,900
⑧		(現　金)		1,200	
		(売　掛　金)		700	
		B商店へ上記商品販売			
	15	諸　口			
⑨		(車両運搬具)		1,050	
		(備　品)　諸　口		250	
		(現　金)			800
		(未　払　金)			500
		Xモータースよりトラックと修理用具購入			

① 日付欄に取引が発生した月と日を書きますが，月は替わらないかぎりページの最初にだけ書きます。

② 摘要欄に勘定科目を記入しますが，次の点に注意してください。

(a) 摘要欄を左右半分に分けて，左側を借方，右側を貸方と考えます。

(b) 勘定科目は必ずカッコ書きします。

(c) 通常は借方を上に，貸方を１行下げて記入します。

③ 勘定科目の下に取引の要約を記入しますが，これを小書（こが）きといいます（ただし，学習簿記では省略されることが多い）。

④ 金額も勘定科目と同様に，借方側を上に，貸方側を１行下げて記入します。

⑤ 一つの取引の記入が終わったら，それを示す線（境界線）を摘要欄に引きます。

⑥　日が同じであれば「〃」をつけます。

⑦　勘定科目が複数のときには，複数あるほうの最初の行に「諸口」と記入します。このとき，次の点に注意してください。

(a)　貸方が複数の場合，借方の勘定科目と同じ行に「諸口」と書きます。

(b)「諸口」はカッコ書きしません。

⑧　借方が複数であり，貸方が１行の場合は，貸方を先に記入し，貸方の勘定科目と同じ行に「諸口」と書きます。

⑨　借方，貸方ともに複数の場合は，借方を先に記入し，それの最後の勘定科目と同じ行の貸方に「諸口」と書きます（「諸口」を同じ行に並べる記入の仕方もあります）。

	15	諸　　口	諸　　口		
⑨		（車両運搬具）		1,050	
		（備　　品）		250	
			（現　　金）		800
			（未　払　金）		500
		Ｘモータースよりトラックと修理用具購入			

〔ページ替え，締め切りの場合〕

	25	（給　　料）		360	
			（現　　金）		360
		給料を現金で支給 ①			③
			② 次頁へ繰越	8,650	8,650

①　仕訳がページの最後になるときは，摘要欄に線を引きません。

②　摘要欄の右側に，“次頁へ繰越”と記入します（“次頁へ”とすることもあります）。

③　合計線を引いてそのページの合計額を算出します。

なお，一つの仕訳が仕訳帳の同じページ内に収まらないときは記入せず，次ページに記入します。その際，記入しない行の摘要欄に斜線（余白線）を引きます。

❷総勘定元帳

設けられているすべての勘定口座を一つにまとめた帳簿を総勘定元帳といいます。

(1)　総勘定元帳とは

仕訳帳に仕訳を記入したのち，勘定を設けた帳簿である総勘定元帳に転記します。この総勘定元帳には，通常，資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の順に勘定を設けます。また，総勘定元帳は，単に元帳とよばれることもあり，貸借対照表・損益計算書を作成するのに資料となる重要な帳簿なので，仕訳帳とともに主要簿といいます。

総勘定元帳に設けられる勘定口座には，いろいろな形式があります。

⑵　総勘定元帳の記入例

総勘定元帳の様式とその記入方法は，次のとおりです。

イ．標準式

現　　金　　1

平成×1年		摘　　要	仕丁	借　　方	平成×1年		摘　　要	仕丁	貸　　方

月・日　相手科目　仕訳帳のページ数　金額

この標準式を簡略化したのがＴフォームです。記入にあたっては次のことに注意してください。

現　　金　　1

平成×1年		摘　　要	仕丁	借　　方	平成×1年		摘　　要	仕丁	貸　　方
① 4	1	②資 本 金	③ 1	④ 5,000	4	3	仕　　入	1	200
	10	売　　上	〃	1,200		15	諸　　口	〃	800

① 日付欄に仕訳帳の月・日を記入します。

② 摘要欄に仕訳の相手科目を記入します。相手科目にカッコはつけません。また，相手科目が２つ以上あるときは「諸口」と記入します。

③ 仕丁欄に仕訳が記入されている仕訳帳のページを記入します。

④ 仕訳帳の借方側に仕訳がされるときは借方欄に金額を記入し，仕訳帳の貸方側に仕訳がされるときは貸方欄に金額を記入します。

ロ．残高式

現　　金　　1

平成×1年		摘　　要	仕丁	借　　方	貸　　方	借／貸	残　　高

月・日　相手科目　仕訳帳のページ数　金額　残高

残高式の勘定口座への記入は，標準式と同じ要領で行います。ただし「借／貸」欄の記入は，残高が借方のときは「借」，残高が貸方のときは「貸」と記入します。

現　　金　　1

平成×1年		摘　　要	仕丁	借　　方	貸　　方	借／貸	残　　高
4	1	資 本 金	1	5,000		借	5,000
	3	仕　　入	〃		200	〃	4,800
	10	売　　上	〃	1,200		〃	6,000
	15	諸　　口	〃		800	〃	5,200

❸仕訳帳と総勘定元帳の関係

仕訳帳と総勘定元帳が相互に照合できるように，仕訳帳には元丁欄，総勘定元帳には仕丁欄があります。

⑴　元丁欄

仕訳帳から総勘定元帳の勘定口座に転記が済んだとき，その口座のページ数（または口座番号）を書き，転記済みの印とします。

⑵　仕丁欄

その取引が仕訳された仕訳帳のページ数を記入し，仕訳帳との照合に役立たせます。

元帳（現金）のページ数

仕　訳　帳　　1

平成×1年		摘　要	元丁	借　方	貸　方
4	1	（現　金）	①	5,000	
		（資　本　金）	45		5,000
		現金を元入れして開業			

元帳（資本金）のページ数

総　勘　定　元　帳

現　金　　1

平成×1年		摘　要	仕丁	借　方	平成×1年		摘　要	仕丁	貸　方
4	1	資本金	①	5,000					

仕訳帳のページ数

資　本　金　　45

平成×1年		摘　要	仕丁	借　方	平成×1年		摘　要	仕丁	貸　方
					4	1	現　金	①	5,000

仕訳帳のページ数

5 試算表の作成

転記は単純な手続きですが，必ずしも正しく行われているとは限りません。そこで，試算表を作成して転記が正しく行われたかをチェックする必要があります。

1. 試算表とは

試算表（Trial Balance：T/B）とは，勘定の合計または残高を集計した一覧表をいいます。決算のときには必ず作成しますが，毎日，毎週末，毎月末など企業の必要に応じて作成されます。

2. 試算表の種類と作り方

試算表は集計の仕方によって，合計試算表，残高試算表，合計残高試算表の３種類がありますが，これは各勘定の合計と残高とに関係するものです。

現　金

1/ 1	資本金	100	2/ 3	借入金	50	貸方合計 140
3/10	諸　口	60	4/27	仕　入	90	
5/15	諸　口	40				借方残高 60

借方合計 200

合 計 試 算 表

借　方	勘定科目	貸　方
200	現　　金	140

各勘定の借方合計と貸方合計を集計した表です。

残 高 試 算 表

借　方	勘定科目	貸　方
60	現　　金	

各勘定の借方残高または貸方残高を集計した表です。

合計残高試算表

借　方		勘定科目	貸　方	
残 高	合 計		合 計	残 高
60	200	現　　金	140	

合計試算表と残高試算表を一つにまとめた表です。

設例 3-1

次の勘定にもとづいて，①合計試算表，②残高試算表，③合計残高試算表を作成しなさい。

現　金

1/ 1	資本金 400	3/23	仕入 100
2/19	借入金 200	6/21	借入金 50
4/18	売上 150	8/ 6	仕入 100
10/20	売上 140	12/25	諸口 100
11/15	受取手数料 10		

資　本　金

		1/ 1	諸口 500

受取手数料

		11/15	現金 10

給　料

12/25	現金 60		

支払利息

12/25	現金 15		

車両運搬具

1/ 1	資本金 100		

借入金

6/21	現金 50	2/19	現金 200

売上

		4/18	現金 150
		10/20	現金 140

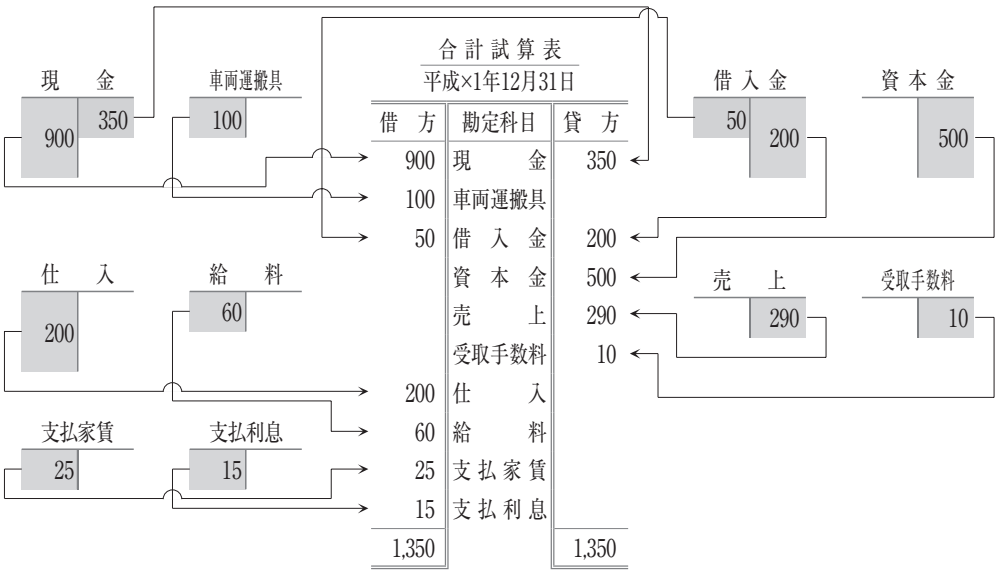
仕入

3/23	現金 100		
8/ 6	現金 100		

支払家賃

12/25	現金 25		

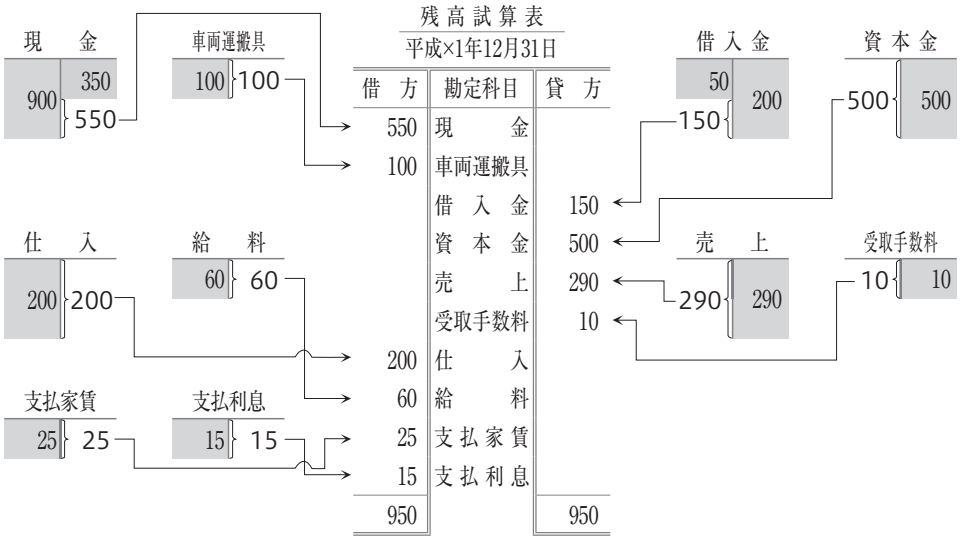
① 合計試算表の作成例



合計試算表
平成×1年12月31日

借方	勘定科目	貸方
900	現金	350
100	車両運搬具	
50	借入金	200
	資本金	500
	売上	290
	受取手数料	10
200	仕入	
60	給料	
25	支払家賃	
15	支払利息	
1,350		1,350

② 残高試算表の作成例



③ 合計残高試算表の作成例

合計残高試算表
平成×1年12月31日

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
550	900	現金	350	
100	100	車両運搬具		
	50	借入金	200	150
		資本金	500	500
		売上	290	290
		受取手数料	10	10
200	200	仕入		
60	60	給料		
25	25	支払家賃		
15	15	支払利息		
950	1,350		1,350	950

3. 転記の正確性の検証

仕訳は，借方と貸方の金額がつねに一致しています。転記のとき勘定の借方に記入された金額は，必ずほかの勘定の貸方にも記入されるので，すべての勘定の借方総合計と貸方総合計，さらに借方残高と貸方残高のそれぞれの総合計も必ず一致します（貸借平均の原理）。このことから，試算表の貸借が一致するか否かによって，転記ミスの有無を検証することができます。

しかし，誤った仕訳であっても金額が一致しているときは，試算表では検証できないので注意してください。

基本例題05

□check!

次の勘定にもとづいて合計残高試算表を作成しなさい。

現　金

1/ 1	前期繰越	5,000	2/23	仕　入	1,000
3/16	売　上	2,000	4/23	借入金	500
5/11	受取手数料	1,500	6/29	給　料	700
9/16	売　上	2,500	7/31	支払利息	300
11/ 5	売　上	1,400	10/14	仕　入	1,400

車両運搬具

1/ 1	前期繰越	2,000			

仕　入

2/23	現　金	1,000			
10/14	現　金	1,400			

給　料

6/29	現　金	700			

支払利息

7/31	現　金	300			

借入金

4/23	現　金	500	1/ 1	前期繰越	2,000

資本金

			1/ 1	前期繰越	5,000

売　上

			3/26	現　金	2,000
			9/16	現　金	2,500
			11/ 5	現　金	1,400

受取手数料

			5/11	現　金	1,500

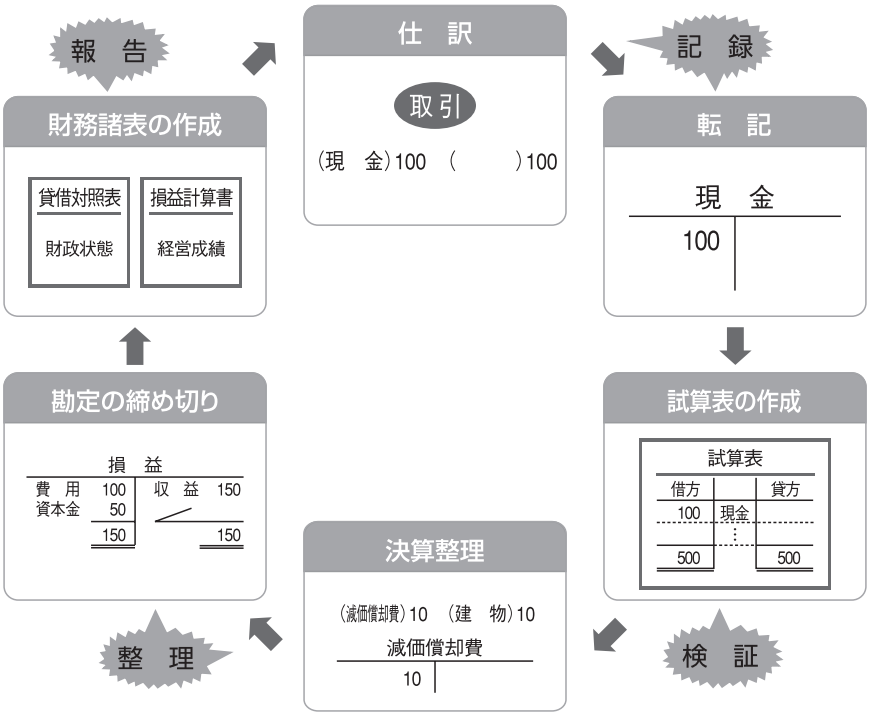
合計残高試算表

平成×1年12月31日

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
		現　金		
		車両運搬具		
		借入金		
		資本金		
		売　上		
		受取手数料		
		仕　入		
		給　料		
		支払利息		

6 簿記一巡の手続き

決算をもって簿記の手続きは終わり，次期以降これを繰り返すことになります。この，仕訳に始まって決算で終わる一連の手続きを簿記一巡の手続きといいます。



（注）　決算整理，勘定の締め切り，財務諸表の作成については「テーマ16」以降で学習します。

coffee break

複式簿記のはじめ

イタリアの数学者ルカ・パチオリ（Lucas Pacioli）が出版した『ズンマ』という本が，複式簿記についてのはじめての解説書といわれています。

1494年に刊行された，正式には『算術・幾何・比および比例全書（Summa de Arithmetica Geometrica, Proportional et Proportionalita)』という数学の本の中で，「計算および記録詳論（Partioularis de Computis et Scripturin)」というタイトルで，複式簿記について詳しく紹介されています。彼が『ズンマ』を刊行したのは49歳のときでした。

彼は1445年，イタリア北部の小さな田舎町で生まれ，少年期に宗教学校で文法，討論術などを学び，さらに当時の名高い芸術家，数学者からも教えを受けました。

その後青年期にはイタリアのベネチアに行き，豪商の家庭教師となり，自身もこの地で数学者としての基礎を築いたといわれます。30代のころ僧団に入団し，その後ピサ大学，ボローニャ大学など各地の大学で数学を教え，晩年は故郷に帰り修道院長となったそうです。

04 Theme 商品売買（Ⅰ）

Check ここでは，商品の購入と販売について，その処理方法を学習します。商業簿記ではもっとも大切なテーマですから，しっかり学習しましょう。

Date.1 ／　　Date.2 ／　　Date.3 ／

1 三分法による処理

1. 三分法とは

三分法とは，商品の売買について繰越商品勘定（資産）・仕入勘定（費用）・売上勘定（収益）の３つに分けて記入する方法です。

仕入	
仕入れた商品の原価	

売上	
	販売した商品の売価

繰越商品	
売れ残った商品の原価	

（注）繰越商品勘定は期首にある（前期末に売れ残った）商品の原価を記入する勘定ですが，ここでは商品の購入と販売の処理について学習し，繰越商品勘定については後述します。

(1) 商品を仕入れたとき

商品を仕入れたときは，その商品の原価（仕入原価）を仕入勘定（費用）の借方に記入します。

仕訳例 01

４月３日，東京商店から商品300円を仕入れ，代金は現金で支払った。

（仕　　入）　300　　（現　　金）　300

仕入	
4/3 現　金 300	

⑵ 商品を販売したとき

商品を販売したときは，その商品の売価を売上勘定（収益）の貸方に記入します。

仕訳例 02［仕訳例01］の続き

4月15日，横浜商店に商品を450円で販売し，代金は現金で受け取った。

（現　　金）　450　　（売　　上）　450

売　上	
	4/15 現　金　450

なお，三分法では，商品売買益（粗利益）は期末にまとめて計算します（詳しくは後述）。

ここがPOINT

日商検定3級では三分法が出題されるので，商品の購入は「仕入（費用）」，商品の販売は「売上（収益）」のそれぞれの勘定で処理すること。

基本例題06

□check!

次の一連の取引について仕訳しなさい。

1．東京商店から商品2,000円を仕入れ，代金は現金で支払った。

2．横浜商店に上記の商品を2,700円で販売し，代金は現金で受け取った。

2 掛けによる売買

1. 掛けによる売買とは

商品の代金を将来の一定期日に支払うことを約束して商品を売買することを，掛(か)けによる売買といいます。

取引量が多くなるほど代金の受け取りや支払いがその場にて現金で行われることは少なく，むしろ，継続的な取引であれば取引先へ掛けで商品を売買することのほうが一般的です。

2. 売掛金・買掛金

掛けによる売買が行われると，取引先との間に商品の代金をあとで受け取る権利と支払う義務が生じます。こうした債権と債務は，売掛金(うりかけきん)勘定（資産）・買掛金(かいかけきん)勘定（負債）で処理します。

売　掛　金	
掛　売　上　高 （増　　加）	回　　収　　高 （減　　少）

買　掛　金	
支　　払　　高 （減　　少）	掛　仕　入　高 （増　　加）

⑴ **商品を掛けで仕入れたとき**

商品を掛けで仕入れたときは，あとで商品の代金を支払う義務が生じるので，買掛金勘定（負債）の貸方に記入します。

仕訳例 03

4月3日，東京商店から商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。

（仕　　入）　300　　（買　掛　金）　300

買　掛　金	
	4/3　仕　入　300

⑵ 買掛金を支払ったとき

後日，買掛金を支払ったときは，負債が減少するので買掛金勘定の借方に記入します。

仕訳例 04［仕訳例03］の続き

4月10日，東京商店に買掛金250円を現金で支払った。

（買　掛　金）　250　　（現　金）　250

買　掛　金	
4/10 現　金　250	4/3 仕　入　300

⑶ 商品を掛けで販売したとき

商品を掛けで販売したときは，あとで商品の代金を受け取る権利が生じるので，売掛金勘定（資産）の借方に記入します。

仕訳例 05

4月15日，横浜商店に商品を450円で販売し，代金は掛けとした。

（売　掛　金）　450　　（売　上）　450

売　掛　金	
4/15 売　上　450	

⑷ 売掛金を回収したとき

後日，売掛金を回収したときは，資産が減少するので売掛金勘定の貸方に記入します。

仕訳例 06［仕訳例05］の続き

4月25日，横浜商店から売掛金300円を現金で回収した。

（現　金）　300　　（売　掛　金）　300

売　掛　金	
4/15 売　上　450	4/25 現　金　300

基本例題07

□check!

次の一連の取引について仕訳しなさい。

1．東京商店から商品2,000円を仕入れ，代金は掛けとした。
2．横浜商店に上記の商品を2,700円で販売し，代金は掛けとした。
3．東京商店に買掛金1,600円を現金で支払った。
4．横浜商店から売掛金2,500円を現金で回収した。

★supplement

人名勘定

取引先ごとの債権・債務の状態を把握するために，取引先の商店名をつけた勘定を設けて，売掛金・買掛金の増減を記入することがあります。この商店名をつけた勘定を人名勘定（じんめいかんじょう）といいます。

○ ○ 商 店

掛売上高	回収高

× × 商 店

支払高	掛仕入高

■仕訳例

⑴ 商品を掛けで仕入れたとき

4月3日，東京商店から商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。

（仕　　入）　300　　（東京商店）　300

⑵ 買掛金を支払ったとき

4月10日，東京商店に買掛金250円を現金で支払った。

（東京商店）　250　　（現　　金）　250

東 京 商 店

4/10	現　金	250	4/3	仕　入	300

■仕訳例

⑴ 商品を販売したとき

4月15日，横浜商店に商品を450円で販売し，代金は掛けとした。

（横浜商店）　450　　（売　　上）　450

⑵ 売掛金を回収したとき

4月25日，横浜商店から売掛金300円を現金で回収した。

（現　　金）　300　　（横浜商店）　300

横 浜 商 店

4/15	売　上	450	4/25	現　金	300

MEMO

05 Theme 商品売買（Ⅱ）

Check ここでは，商品売買における返品・値引きや諸掛り，商品に関係する補助簿の記入方法について学習します。

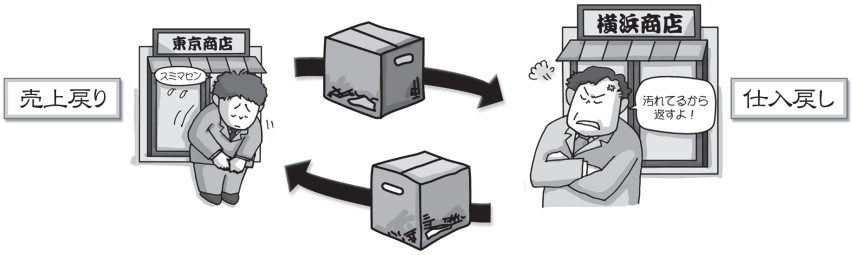
Date.1 ／　　Date.2 ／　　Date.3 ／

1 返品・値引き

1. 返品とは

(1) 返品とは

商品の品違い，傷，汚れなどにより，商品を送り返したり，送り返されることを返品（へんぴん）といいます。また，いったん仕入れた商品を送り返すことを仕入戻し（しいれもど），いったん販売した商品が送り返されることを売上戻り（うりあげもど）といいます。



返品が行われたときは，商品を仕入れたり販売した取引を取り消す処理を行います。

(2) 仕入戻し

仕入戻しが行われると，商品それ自体が戻されるので，帳簿の記録も同様に仕入取引がなかったものとして，これを取り消す処理を行います。

したがって，三分法では，商品を仕入れたときとは貸借逆の仕訳（逆仕訳）をします。

仕訳例 01

5月12日，5月5日に東京商店から掛けで仕入れた商品300円のうち，100円を品違いのため返品した。

（買　掛　金）　100　　（仕　　入）　100

仕　入

5/5	買掛金	300	5/12	買掛金	100

⑶ 売上戻り

売上戻りが行われると，商品それ自体が戻されるので，帳簿の記録も同様に売上取引がなかったものとして，これを取り消す処理を行います。したがって，三分法では，商品を販売したときとは貸借逆の仕訳（逆仕訳）をします。

仕訳例 02

５月18日，５月10日に横浜商店へ掛けで販売した商品450円のうち，150円が品違いのため返品された。

（売　　上）　150　　（売　掛　金）　150

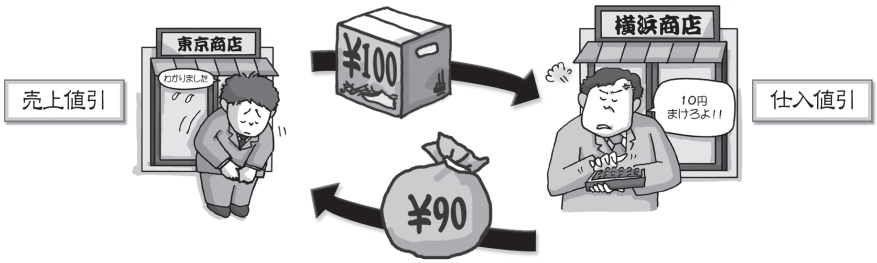
売　上

5/18 売 掛 金	150	5/10 売 掛 金	450

2. 値引きとは

⑴ 値引きとは

商品の量目不足（りょうめぶそく），品質不良，傷，汚れなどにより，商品の値段をまけることを値引きといい，商品の値段をまけてもらうことを仕入値引（しいれねびき），また商品の値段をまけることを売上値引（うりあげねびき）といいます。返品とは異なり商品は移動しませんので，注意してください。



⑵ 仕入値引

仕入値引が行われると，商品を安く仕入れたことと同じになるので，帳簿の記録も同様に仕入原価を減らす処理を行います。三分法では，仕入勘定（費用）のマイナスとして貸方側へ記入することで，仕入原価の修正を行います。

仕訳例 03［仕訳例01］の続き

５月23日，５月５日に東京商店から掛けで仕入れた商品に汚損があったため，仕入先より50円の値引きを受けた。

（買　掛　金）　50　　（仕　　入）　50

仕　入

5/5 買 掛 金	300	5/12 買 掛 金	100
		5/23 買 掛 金	50

⑶ 売上値引

売上値引が行われると，商品を安く販売したことと同じになるので，帳簿の記録も安く販売したことにするため，利益を減らす処理を行います。しかし，三分法では期中において商品売買益の計算を行わないので，売上勘定（収益）のマイナスとして，借方側に記入します。

仕訳例 04［仕訳例02］の続き

５月26日，５月10日に横浜商店へ掛けで販売した商品に汚損があったため，85円の値引きを承諾した。

（売　　上）　85　　（売　掛　金）　85

売　上			
5/18 売 掛 金	150	5/10 売 掛 金	450
5/26 売 掛 金	85		

3. 仕入勘定と売上勘定の記入

仕入勘定と売上勘定には次のような内容が記入されます。両勘定ともその残高が純仕入高，純売上高となります。

基本例題08　□check!

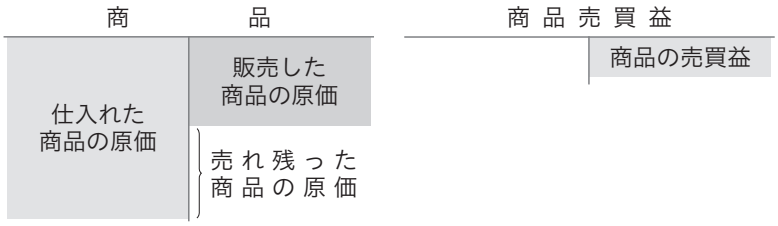
次の取引について仕訳しなさい。

1．東京商店から掛けで仕入れた商品のうち，1,000円を品違いのため返品した。
2．横浜商店に掛けで販売した商品のうち，1,500円が品違いのため返品された。
3．東京商店から掛けで仕入れた商品に汚損があったため，500円の値引きを受けた。
4．横浜商店に掛けで販売した商品に汚損があったため，650円の値引きを承諾した。

★supplement

分記法

分記法とは，商品の売買について商品勘定（資産）と商品売買益勘定（収益）の２つを用いて記帳する方法です。



⑴　商品を仕入れたとき

商品を仕入れたときは，その商品の原価（仕入原価）を商品勘定（資産）の借方に記入します。なお，値引きや返品があったときは，商品勘定の貸方に記入します。

■仕訳例

４月３日，横浜商店は東京商店から商品300円（30個@10円）を仕入れ，代金は掛けとした。

（商　　品）　300　　（買　掛　金）　300

商　品	
4/3 買掛金　300	

４月５日，上記３日の商品につき10個を東京商店に返品し，代金は掛けと相殺した。

（買　掛　金）　100　　（商　　品）　100

商　品	
4/3 買掛金　300	4/5 買掛金　100

４月10日，上記３日の商品につき汚損品が５個発見されたため，１個あたり１円の値引きを東京商店から受け，代金は掛けと相殺した。

（買　掛　金）　5　　（商　　品）　5

商　品	
4/3 買掛金　300	4/5 買掛金　100
	4/10 買掛金　5

⑵　商品を販売したとき

商品を販売したときは，その商品の原価（売上原価）を商品勘定の貸方に記入するとともに，その商品の売価と原価との差額を商品売買益勘定（収益）の貸方に記入します。

なお，返品を受けたときは，商品勘定の借方にその原価を記入し，商品売買益勘定の借方にその売価と原価の差額を記入します。これは商品を販売したときの逆仕訳になります。

また，値引きに応じたときは，その値引き額を商品売買益勘定の借方に記入し，利益部分だけを減らします。

■仕訳例

4月15日，横浜商店は佐賀商店に商品を450円（15個@30円）を販売し，代金は掛けとした。なお，商品の原価は1個あたり10円である。

（売　掛　金）	450	（商　品）	150
		（商品売買益）	300

商　品			
4/3 買掛金	300	4/5 買掛金	100
		4/10 買掛金	5
		4/15 売掛金	150

商品売買益			
		4/15 売掛金	300

4月20日，横浜商店は佐賀商店より15日に販売した商品につき，5個の返品があり，代金は売掛金と相殺した。

（商　品）	50	（売　掛　金）	150
（商品売買益）	100		

商　品			
4/3 買掛金	300	4/5 買掛金	100
4/20 売掛金	50	4/10 買掛金	5
		4/15 売掛金	150

商品売買益			
4/20 売掛金	100	4/15 売掛金	300

4月25日，横浜商店は佐賀商店へ15日に販売した商品につき，3個の汚損品が発見されたため，1個あたり10円の値引きを実施し，代金は掛けと相殺した。

（商品売買益）	30	（売　掛　金）	30

商　品			
4/3 買掛金	300	4/5 買掛金	100
4/20 売掛金	50	4/10 買掛金	5
		4/15 売掛金	150

商品売買益			
4/20 売掛金	100	4/15 売掛金	300
4/25 売掛金	30		

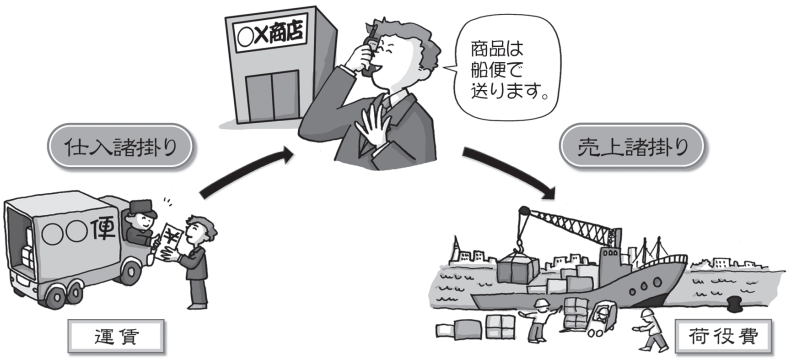
分記法では，商品の購入と販売のつど，このような処理を行うため，期末での商品勘定の残高は売れ残った商品の原価であり，商品売買益勘定の期末残高は一会計期間の商品売買益（粗利益）を示しています。

なお，この方法は，商品を販売するつど売上原価を調べる必要があるので，手間を要することからあまり実務的ではありません。

2 諸掛り

1. 諸掛りとは

商品の移動にはさまざまな費用がかかります。これを諸掛りといいます。商品を仕入れるためにかかった費用を仕入諸掛りといい，また，商品を発送するときにかかった費用を売上諸掛りといいます。



2. 諸掛りの処理

原則として，仕入諸掛りは仕入原価に加算し，売上諸掛りは販売費として処理します。

(1) 仕入諸掛りを支払ったとき

仕入諸掛りは仕入原価に加算して商品の取得原価とするので，三分法では仕入勘定で処理します。

取得原価＝ 仕入原価＋ 仕入諸掛り（付随費用）

仕訳例 05

６月５日，東京商店から商品300円を仕入れ，代金は掛けとした。なお，引取費用20円を現金で支払った。

（仕　　入）	320	（買　掛　金）	300
		（現　　金）	20

仕　　入

6/5 諸　口　320	

⑵ 売上諸掛りを支払ったとき

売上諸掛りは，販売費として処理するので，発送費勘定（費用）などで処理します。

なお，発送費の内訳で処理する場合もあり，その場合は，それぞれの内容ごとに支払保険料勘定（費用），支払運賃勘定（費用）などで処理します。

仕訳例 06

６月10日，横浜商店に商品を450円で販売し，代金は掛けとした。なお，発送費用50円を現金で支払った。

（売　掛　金）	450	（売　　上）	450
（発　送　費）	50	（現　　金）	50

発　送　費

6/10 現　金	50	

（注）仕入諸掛りおよび売上諸掛りを立替払いするケースもありますが，これについては，「テーマ11その他の期中取引（Ⅰ）6立替金・預り金」で学習します。

ここがPOINT

仕入諸掛りと売上諸掛りを当店が負担した場合は，費用として処理する。

	当店負担
仕入諸掛り	仕入原価に加える
売上諸掛り	発送費勘定等で処理する

基本例題09

□check!

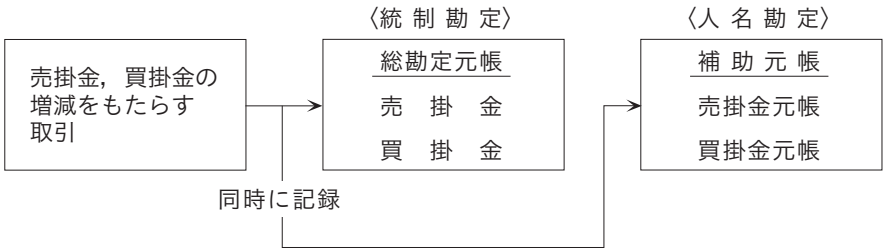
次の取引について仕訳しなさい。

1．東京商店から商品2,000円を仕入れ，代金は掛けとした。なお，引取費用650円を現金で支払った。

2．横浜商店に商品を3,500円で販売し，代金は掛けとした。なお，発送費用750円を現金で支払った。

3 総勘定元帳と売掛金元帳・買掛金元帳

売掛金・買掛金勘定を統制勘定とし，取引先ごとの増減を記録する人名勘定（「テーマ４」のsupplement）とあわせて，次のような帳簿の体系をとることがあります。売掛金・買掛金の総額を管理するとともに，取引先ごとの管理も可能になります。

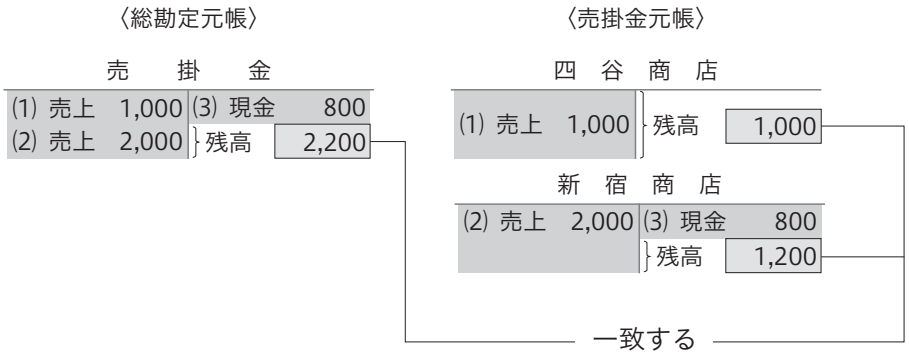


売掛金，買掛金の増減をもたらす取引が発生した場合，総勘定元帳の売掛金勘定，買掛金勘定に記録すると同時に，売掛金元帳，買掛金元帳にも記録します。このように，売掛金勘定と買掛金勘定は売掛金元帳，買掛金元帳を統制する勘定となるので，統制勘定または統括勘定といわれています。

設例 5-1

次の(1)～(3)までの仕訳にもとづいて，売掛金勘定と売掛金元帳の関係を示すと次のとおりである。

(1)	四谷商店	（売　掛　金）	1,000	（売　　上）	1,000
(2)	新宿商店	（売　掛　金）	2,000	（売　　上）	2,000
(3)	新宿商店	（現　　金）	800	（売　掛　金）	800



★supplement

売掛金元帳と買掛金元帳

❶売掛金元帳

売掛金勘定の内訳明細を発生順に記入する補助簿を売掛金元帳（得意先元帳）といいます。その記入例を示すと次のとおりです。

売　掛　金　元　帳
横浜商店

平成×1年		摘　　要	借　方	貸　方	借／貸	残　高
5	1	前　月　繰　越	400		借	400
	8	掛　け　売　上	100		〃	500
	16	返　　品		30	〃	470
	25	掛　け　売　上	360		〃	830
	30	売掛金の回収		300	〃	530
	31	次　月　繰　越		530		
			860	860		
6	1	前　月　繰　越	530		借	530

❷買掛金元帳

買掛金勘定の内訳明細を発生順に記入する補助簿を買掛金元帳（仕入先元帳）といいます。その記入例を示すと次のとおりです。

買　掛　金　元　帳
東京商店

平成×1年		摘　　要	借　方	貸　方	借／貸	残　高
5	1	前　月　繰　越		200	貸	200
	6	掛　け　仕　入		120	〃	320
	10	返　　品	80		〃	240
	15	掛　け　仕　入		300	〃	540
	20	買掛金の支払い	250		〃	290
	31	次　月　繰　越	290			
			620	620		
6	1	前　月　繰　越		290	貸	290

★supplement

仕入帳と売上帳

仕入取引（または売上取引）の内訳明細を発生順に記入する補助簿を仕入帳（しいれちょう）（または売上帳（うりあげちょう））といいます。その記入例を示すと次のとおりです。

仕　入　帳

平成×1年		摘要			内訳	金額
10	1	仙台商店		掛け		
		A商品	10個	@60円		600
	10	青森商店		掛け		
		B商品	15個	@60円	900	
		C商品	20個	@50円	1,000	1,900
	15	仙台商店		掛け返品		
		A商品	2個	@60円		120
	20	山形商店		掛け		
		D商品	30個	@70円	2,100	
		引取運賃現金払い			200	2,300
	25	青森商店		掛け値引		
		B商品	15個	@10円		150
	31			総仕入高		4,800
	〃			仕入値引・戻し高		270
				純仕入高		4,530

① 摘要欄には取引先，商品名，支払方法，数量，単価などを記入し，合計額を金額欄に記入します。

② 一つの記入が終わったら，摘要欄に線を引きます。

③ 内訳欄は，商品の種類別の内訳または仕入諸掛りの金額を記入し，その合計額を金額欄に記入します。

④ 値引き，返品が発生したとき，日付，摘要，金額のすべてを朱記（またはカッコ書き）します。

⑤ ページ最後の取引の記入は摘要欄に線を引きません。

⑥ 金額欄に合計線を引いて総仕入高（値引き，返品を控除する前の金額）を求め，次に値引き，返品の金額を控除して純仕入高を算出した後，帳簿を締め切ります。

なお，売上帳の記入方法は仕入帳と同じなので，締め切り方のみを示しておきます。

売　上　帳

平成 ×1年		摘　　要	内　訳	金　額
	31	総　売　上　高		4,800
	〃	売上値引・戻り高		120
		純　売　上　高		4,680

coffee break

本当の最初の簿記の本

複式簿記についての最初の解説書は，ベネディット・コトルーリという裁判官が書いた『商業と完全な商人』といわれています（1458年）。『ズンマ』刊行より36年前のことでしたが，この本の原稿はそのまま115年間，ナポリでだれの目にも触れることなく，眠りつづけました。

悲運というほかはないですね。

4 商品有高帳

商品の種類ごとに受け入れ・払い出しのつど，数量・単価・金額を記入して，残高の内訳明細を記録する補助簿を商品有高帳（しょうひんありだかちょう）といいます。記入例は次のとおりです。

（先入先出法）　　①　　商　品　有　高　帳　　②　　③

A　品

平成×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1	前月繰越	5	200	1,000				5	200	1,000
	7	仕入	15	240	3,600				5	200	1,000
									15	240	3,600

① 商品を仕入れたときには，受入欄に記入します。

② 商品を販売したときには，払出欄に原価で記入します。
この販売した商品の原価を売上原価（うりあげげんか）といい，次のようにも計算できます。

売上原価＝月初商品棚卸高＋当月商品仕入高－月末商品棚卸高
（月初在庫）　（仕入）　（月末在庫）

また，売上高から売上原価を差し引いた利益を売上総利益（うりあげそうりえき）といいます。

売上総利益＝売上高－売上原価

③ 在庫品の有高を残高欄に記入します。

商品有高帳の記帳方法は，商品の払出単価の決定方法によりいくつかありますが，３級では，先入先出法（さきいれさきだしほう）と移動平均法（いどうへいきんほう）の２つの方法について学習します。

1. 先入先出法

先に受け入れたものから順に払い出すものと仮定して，払出単価を決定する方法です。したがって，単価の異なる商品を受け入れたら，それらを区別しておく必要があります。

設例 5-2

当月の商品の仕入れおよび売上げは次のとおりである。

5／1　前月繰越　5個　@ 200円
5／7　仕　　入　15個　@ 240円
5／19　売　　上　10個　@ 450円（売価）
5／22　仕　　入　10個　@ 200円
5／28　売　　上　14個　@ 460円（売価）

（先入先出法）　　商品有高帳

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1	前月繰越	5	200	1,000				5	200	1,000
	7	仕入	15	240	3,600				5	200	1,000
								①	15	240	3,600
	19	売上				5	200	1,000			
					②	5	240	1,200	10	240	2,400
	22	仕入	10	200	2,000				10	240	2,400
									10	200	2,000
	28	売上				10	240	2,400			
						4	200	800	6	200	1,200
	31	次月繰越			③	6	200	1,200			
			30	——	6,600	30	——	6,600			
6	1	前月繰越	6	200	1,200				6	200	1,200

月初商品棚卸高	1,000
当月商品仕入高	5,600
計	6,600
月末商品棚卸高	1,200
売上原価	5,400

売上高	10,940
売上原価	5,400
売上総利益	5,540

① 7日の仕入れは，単価の異なるものを受け入れたので，2行に分けて区別しておきます。

② 19日の売上数量は10個ですから，まず前月繰越分の5個が払い出されていくものとして処理します。以下同様に記載します。

③ 払出欄の合計額に月末の残高を加算し（日付，次月繰越，金額すべて朱記），その合計額が受入欄の合計額と一致することを確認して商品有高帳を締め切りますが，このとき，摘要欄だけは締切線を引かないので注意してください。

2. 移動平均法

単価の異なる商品を受け入れたつど，次の算式で平均単価を計算し，それを次の払出単価とする方法です。

$$\frac{\text{残高金額} + \text{受入金額}}{\text{残高数量} + \text{受入数量}} = \text{平均単価}$$

設例 5-3

商品の仕入れおよび売上げのデータは［設例５－２］と同一である。

（移動平均法）　　商品有高帳

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
5	1	前月繰越	5	200	1,000				5	200	1,000
	7	仕入	15	240	3,600				20	① 230	4,600
	19	売上				10	230	2,300	10	230	2,300
	22	仕入	10	200	2,000				20	② 215	4,300
	28	売上				14	215	3,010	6	215	1,290
	31	次月繰越				6	215	1,290			
			30		6,600	30		6,600			
6	1	前月繰越	6	215	1,290				6	215	1,290

月初商品棚卸高	1,000	売上高	10,940
当月商品仕入高	5,600	売上原価	5,310
計	6,600	売上総利益	5,630
月末商品棚卸高	1,290		
売上原価	5,310		

① 7日の仕入れは単価の異なるものを受け入れたので，次の算式で平均単価を計算し，この平均単価で19日の払出金額を計算します。

$$\frac{1{,}000\text{円} + 3{,}600\text{円}}{5\text{個} + 15\text{個}} = @\,230\text{円}$$

② 22日の仕入れでまた単価の異なるものを受け入れたので，次の算式で平均単価を計算し，この平均単価で28日の払出金額を計算します。

$$\frac{2{,}300\text{円} + 2{,}000\text{円}}{10\text{個} + 10\text{個}} = @\,215\text{円}$$

基本例題10

□check!

次の資料によって，(イ)先入先出法と(ロ)移動平均法による商品有高帳の記入を示しなさい。ただし，締め切りは不要である。

4月 8 日　仕 入 れ：紳士靴20足　@350円　7,000円
4月16日　売 上 げ：紳士靴25足　@600円（売価）　15,000円
4月22日　仕 入 れ：紳士靴10足　@310円　3,100円
4月29日　売 上 げ：紳士靴10足　@620円（売価）　6,200円

(イ)　先入先出法

商　品　有　高　帳
紳　士　靴

平成×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	10	320	3,200				10	320	3,200

(ロ)　移動平均法

商　品　有　高　帳
紳　士　靴

平成×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	10	320	3,200				10	320	3,200

5 収益と費用の諸勘定

1. 収益の勘定

売上をはじめとする収益の発生額は，その勘定の貸方に記帳します。主な勘定科目は次のとおりです。

売　　上：商品の販売高（売価），三分法で使用
受 取 利 息：銀行の預金・貸付金などに対する利息の受取額
受 取 手 数 料：取引の仲介などにより得たマージン
受 取 地 代：土地を貸したことによる地代の受取額
受 取 家 賃：建物を貸したことによる家賃の受取額
雑益（雑収入）：主な営業活動以外で生じた少額な収益

2. 費用の勘定

仕入をはじめとする費用の発生額は，その勘定の借方に記帳します。主な勘定科目は次のとおりです。

仕　　入：商品の仕入高（原価），三分法で使用
給　　料：従業員に対する給料の支払額
福 利 厚 生 費：従業員の娯楽・慰安，保険衛生にかかる費用の支払額
広　告　費：新聞広告・チラシ・看板などにかかる費用の支払額
旅 費 交 通 費：出張にかかる電車代・宿泊代や通常営業にかかる電車代・バス代などの支払額
水 道 光 熱 費：水道代・電気代・ガス代などの支払額
消 耗 品 費：コピー用紙などの事務用品や包装材料などの使用分
発　送　費：得意先に対する商品の発送にかかる運賃などの支払額
通　信　費：電話代・切手・ハガキなどの支払額
租 税 公 課：営業用建物の固定資産税や印紙税などの支払額。店主の個人に属する分は除く。
支 払 保 険 料：保険料の支払額
支 払 地 代：土地を借りたことによる地代の支払額
支 払 家 賃：建物を借りたことによる家賃の支払額
雑　　費：営業に関係ある少額な費用
支 払 利 息：借入金などに対する利子（利息）の支払額
支 払 手 数 料：取引の仲介などにより支払った手数料
雑損（雑損失）：主な営業活動以外で生じた少額な費用

MEMO

基本例題

日商簿記3級

基本例題01

① 簿　　記　　② 商業簿記　　③ 経営成績　　④ 利害関係者

基本例題02

(1), (4)

基本例題03

4/ 1	(現　　金)	1,000	(資　本　金)	1,000
4/10	(現　　金)	200	(借　入　金)	200
4/15	(借　入　金)	50	(現　　金)	50

基本例題04

現　　金

4/1	資本金	1,000	4/15	借入金	50
10	借入金	200	25	諸　口	130

借　入　金

4/15	現　金	50	4/10	現　金	200

支　払　利　息

4/25	現　金	10			

資　本　金

			4/1	現　金	1,000

支　払　家　賃

4/25	現　金	120			

基本例題05

合計残高試算表
平成×1年12月31日

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
8,500	12,400	現金	3,900	
2,000	2,000	車両運搬具		
	500	借入金	2,000	1,500
		資本金	5,000	5,000
		売上	5,900	5,900
		受取手数料	1,500	1,500
2,400	2,400	仕入		
700	700	給料		
300	300	支払利息		
13,900	18,300		18,300	13,900

基本例題06

1.	(仕入)	2,000	(現金)	2,000
2.	(現金)	2,700	(売上)	2,700

基本例題07

1.	(仕入)	2,000	(買掛金)	2,000
2.	(売掛金)	2,700	(売上)	2,700
3.	(買掛金)	1,600	(現金)	1,600
4.	(現金)	2,500	(売掛金)	2,500

基本例題08

1.	(買掛金)	1,000	(仕入)	1,000
2.	(売上)	1,500	(売掛金)	1,500
3.	(買掛金)	500	(仕入)	500
4.	(売上)	650	(売掛金)	650

基本例題09

1.	(仕　　入)	2,650	(買　掛　金)	2,000
			(現　　金)	650
2.	(売　掛　金)	3,500	(売　　上)	3,500
	(発　送　費)	750	(現　　金)	750

基本例題10

商品有高帳

(イ)先入先出法　　紳士靴

平成×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	10	320	3,200				10	320	3,200
	8	仕入	20	350	7,000				10	320	3,200
									20	350	7,000
	16	売上				10	320	3,200			
						15	350	5,250	5	350	1,750
	22	仕入	10	310	3,100				5	350	1,750
									10	310	3,100
	29	売上				5	350	1,750			
						5	310	1,550	5	310	1,550

商品有高帳

(ロ)移動平均法　　紳士靴

平成×1年		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	10	320	3,200				10	320	3,200
	8	仕入	20	350	7,000				30	340	10,200
	16	売上				25	340	8,500	5	340	1,700
	22	仕入	10	310	3,100				15	320	4,800
	29	売上				10	320	3,200	5	320	1,600

体験入学用

3級 合格トレーニング

簿記検定

問題編

合格トレーニング

日商簿記 3 級

Theme 01 簿記の基礎

理解度チェック

問題1-1 ★★★

次の文章のカッコ内に適当なことばを記入しなさい。

簿記の目的は，企業の（ ① ）状態と（ ② ）成績を明らかにすることである。

企業の一会計期間における（ ② ）成績を表す報告書を（ ③ ）といい，企業の期末における（ ① ）状態を表す報告書を（ ④ ）という。

▼解答欄

①	②	③	④

解答〈3〉ページ

理解度チェック

問題1-2 ★★★

次の勘定科目は，それぞれ資産・負債・純資産（資本）のどれに分類されるか。

資産……a　負債……b　純資産（資本）……cの記号で答えなさい。

① 現　　金　② 借 入 金　③ 買 掛 金　④ 当座預金
⑤ 売 掛 金　⑥ 繰越商品　⑦ 貸 付 金　⑧ 資 本 金
⑨ 備　　品

▼解答欄

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	

解答〈3〉ページ

理解度チェック

問題1-3　★★★

次の勘定科目は，それぞれ費用・収益のどれに分類されるか。
費用……d　収益……eの記号で答えなさい。

① 支払地代　② 受取手数料　③ 売　上　④ 支払利息
⑤ 受取利息　⑥ 給　料　⑦ 仕　入　⑧ 広告費
⑨ 交通費

▼解答欄

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	

解答〈3〉ページ

理解度チェック

問題1-4　★★★

次の東京商店の平成×2年12月31日における資産および負債に関する資料をもとに，解答欄の貸借対照表を完成させなさい。

現　金　200,000円　貸付金　50,000円　建　物　300,000円
土　地　450,000円　借入金　400,000円

▼解答欄

貸借対照表

東京商店　平成×2年12月31日　（単位：円）

資産	金額	負債および純資産	金額
		資本金	500,000
		当期純利益	100,000

解答〈4〉ページ

理解度チェック

問題1-5　★★★

次の大阪商店の平成×3年１月１日から平成×3年12月31日までの収益および費用に関する資料から当期純損益（当期純利益または当期純損失）を計算し，解答欄の損益計算書を完成させなさい。

受取手数料	550,000円	受取家賃	250,000円	給料	450,000円
通信費	150,000円	光熱費	120,000円	支払手数料	30,000円

▼解答欄

損益計算書

大阪商店　　平成×3年１月１日から平成×3年12月31日　　（単位：円）

費用	金額	収益	金額

解答〈4〉ページ

理解度チェック

問題1-6　発展★☆☆

次の解答欄の表の（　　）内に適当な金額を記入しなさい。なお，当期純損失は数字の前に△印を付しなさい。

▼解答欄

	期首			期末			収益	費用	純損益
	資産	負債	純資産	資産	負債	純資産			
1	25,000	(　　)	(　　)	30,000	(　　)	25,000	9,000	(　　)	1,000
2	60,000	(　　)	45,000	55,000	12,000	(　　)	(　　)	22,000	(　　)
3	(　　)	26,000	17,000	(　　)	20,000	(　　)	(　　)	14,000	2,000

解答〈4〉ページ

Theme 02 日常の手続き（Ⅰ）

理解度チェック

問題2-1 ★★☆

次の取引について［A］および［B］の中に入る語句を語群の中から選び数字で答えなさい。

A群　1. 資産の増加　2. 資産の減少　3. 負債の増加
　　4. 負債の減少　5. 費用の発生　6. 収益の発生

B群　1. 借方　2. 貸方

(1) 建物を購入した。この建物は［A］になるので，［B］に記入する。
(2) 借入金を返済した。この借入金は［A］になるので，［B］に記入する。
(3) 手数料を受け取った。この手数料は［A］になるので，［B］に記入する。
(4) 貸付金を回収した。この貸付金は［A］になるので，［B］に記入する。
(5) 現金を受け取った。この現金は［A］になるので，［B］に記入する。
(6) 家賃を支払った。この家賃は［A］になるので，［B］に記入する。

▼解答欄

(1)	A		B		(2)	A		B		(3)	A		B	
(4)	A		B		(5)	A		B		(6)	A		B	

解答〈6〉ページ

理解度チェック

問題2-2 ★★☆

次の取引は，下記の各勘定のどこに記入するかを〈例〉のように２つ選び，空欄に記入しなさい。

資産の勘定		負債の勘定		純資産(資本)の勘定	
1	2	3	4	5	6

費用の勘定		収益の勘定	
7	8	9	10

〈例〉家賃を現金で支払った。　［7］と［2］に記入する。

▼解答欄

(1) 土地を現金で購入した。　□ と □ に記入する。

(2) 家賃を現金で受け取った。　□ と □ に記入する。

(3) 事業開始に際し，現金を元入れした。　□ と □ に記入する。

(4) 借入金を現金で返済した。　□ と □ に記入する。

(5) 借入金の利息を現金で支払った。　□ と □ に記入する。

解答〈6〉ページ

理解度チェック □□□

問題2-3 ★★★

次の取引について仕訳しなさい。

４月１日　現金500,000円を出資して，商品売買業を開業した。
　　５日　南海銀行より現金100,000円を借り入れた。
　　10日　広告費20,000円を現金で支払った。
　　20日　従業員に給料30,000円を現金で支払った。
　　30日　南海銀行に対する借入金のうち60,000円を利息4,200円とともに現金で返済した。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／1				
5				
10				
20				
30				

解答〈6〉ページ

理解度チェック

問題2-4　★★★

次の取引について仕訳しなさい。

１月１日　現金800,000円を元入れして，開業した。
　４日　新潟商店より備品250,000円を購入し，代金を現金で支払った。
　８日　大分商店に現金140,000円を貸し付けた。
　10日　手数料5,000円を現金で受け取った。
　18日　大分商店に対する貸付金140,000円のうち40,000円を利息1,600円とともに現金で返済を受けた。
　25日　家賃75,000円と通信費15,000円を現金で支払った。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
1／1				
4				
8				
10				
18				
25				

解答〈6〉ページ

Theme 03 日常の手続き（Ⅱ）

理解度チェック

問題3-1 ★★★

次の取引について仕訳するとともに，与えられた勘定に転記しなさい。なお，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

4月1日　現金700,000円を元入れして開業した。
10日　東海銀行から現金200,000円を借り入れた。
20日　広告費50,000円を現金で支払った。
25日　従業員に給料100,000円を現金で支払った。
30日　東海銀行に対する借入金のうち50,000円を利息1,000円とともに現金で返済した。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4/1				
10				
20				
25				
30				

現　金

給　料

広告費

借入金

資本金

支払利息

解答〈8〉ページ

理解度チェック

問題3-2　★★★

次の取引について仕訳するとともに，与えられた勘定に転記しなさい。なお，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

7月1日　現金600,000円を出資して開業した。
6日　水沢商店より備品250,000円を購入し，代金は現金で支払った。
11日　大阪商店に現金50,000円を貸し付けた。
17日　手数料10,000円を現金で受け取った。
25日　家賃82,000円と水道光熱費5,000円を現金で支払った。
31日　大阪商店より貸付金のうち30,000円を利息2,000円とともに現金で受け取った。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
7/1				
6				
11				
17				
25				
31				

現　金

資本金

受取利息

貸付金

受取手数料

備　品

支払家賃	

水道光熱費	

解答〈8〉ページ

理解度チェック

問題3-3 ★★☆

次の取引について仕訳するとともに，与えられた勘定に転記しなさい。なお，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

8月1日　郡山銀行より800,000円を借り入れ，利息3,200円を差し引かれた残額は，現金で受け取った。

15日　営業用の土地300,000円と建物100,000円を購入し，代金は現金で支払った。

20日　新潟商店に対して200,000円を貸し付け，利息1,600円を差し引いた残額を現金で渡した。

▼解答欄

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
8/1				
15				
20				

現金	

貸付金	

建物	

土地	

支払利息	

借入金	

受取利息	

解答〈9〉ページ

理解度チェック

問題3-4 ★☆☆

次の取引を仕訳帳に記入し，総勘定元帳の各勘定に転記しなさい。

４月１日　取引先九州商店に現金500,000円を貸し付けた。

30日　上記取引先に貸し付けた金額のうち200,000円を，利息4,000円とともに現金で返済を受けた。

▼解答欄

(摘要欄の小書きは不要)

仕　訳　帳

3ページ

平成×1年		摘要	元丁	借方	貸方
		前ページから		500,000	500,000

総勘定元帳

現　金　1

平成×1年		摘要	仕丁	借方	平成×1年		摘要	仕丁	貸方

貸付金　7

平成×1年		摘要	仕丁	借方	平成×1年		摘要	仕丁	貸方

受取利息　25

平成×1年		摘要	仕丁	借方	平成×1年		摘要	仕丁	貸方

解答〈9〉ページ

理解度チェック

問題3-5 ★★★

次の勘定記録から合計残高試算表を作成しなさい。

現　金

1/1	資本金	200,000	3/10	仕入	50,000
2/23	借入金	70,000	6/20	借入金	30,000
4/20	売上	50,000	7/10	仕入	65,000
9/30	売上	80,000	10/9	仕入	80,000
10/25	売上	90,000	12/25	諸口	51,000
11/13	受取手数料	6,000			

資本金

			1/1	諸口	350,000

仕　入

3/10	現金	50,000			
7/10	現金	65,000			
10/9	現金	80,000			

受取手数料

			11/13	現金	6,000

建　物

1/1	資本金	150,000			

借入金

6/20	現金	30,000	2/23	現金	70,000

売　上

			4/20	現金	50,000
			9/30	現金	80,000
			10/25	現金	90,000

支払地代

12/25	現金	38,000			

支払利息

12/25	現金	12,000			

雑　費

12/25	現金	1,000			

▼解答欄

合計残高試算表

平成×1年12月31日

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
		現金		
		建物		
		借入金		
		資本金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		支払地代		
		支払利息		
		雑費		

解答〈9〉ページ

理解度チェック

問題3-6 ★★★

次の勘定記録から合計残高試算表を作成しなさい。

現　金

1/1	資本金	500,000	2/10	貸付金	150,000
4/10	売上	120,000	3/15	仕入	100,000
6/5	売上	190,000	5/13	仕入	170,000
8/9	受取利息	4,500	7/20	建物	200,000
9/21	売上	140,000	11/25	給料	30,000
10/15	貸付金	70,000	12/20	雑費	11,000

貸付金

2/10	現金	150,000	10/15	現金	70,000

建　物

7/20	現金	200,000

仕　入

3/15	現金	100,000
5/13	現金	170,000

資本金

1/1	現金	500,000

売　上

4/10	現金	120,000
6/5	現金	190,000
9/21	現金	140,000

受取利息

8/9	現金	4,500

給　料

11/25	現金	30,000

雑　費

12/20	現金	11,000

▼解答欄

合計残高試算表

平成×1年12月31日

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
		現金		
		貸付金		
		建物		
		資本金		
		売上		
		受取利息		
		仕入		
		給料		
		雑費		

解答〈10〉ページ

Theme 04 商品売買（Ⅰ）

理解度チェック

問題4-1 ★★☆

次の取引について仕訳するとともに，与えられた勘定に転記しなさい。なお，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

４月２日　商品30,000円を仕入れ，代金は現金で支払った。

５日　商品を41,000円（原価25,000円）で販売し，代金は現金で受け取った。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／2				
5				

仕　入	

売　上	

解答〈11〉ページ

理解度チェック

問題4-2　★★★

次の取引について仕訳し，解答欄の各勘定に転記しなさい。なお，商品売買の記帳は三分法によること。また，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。

５月２日　商品50,000円を仕入れ，代金は掛けとした。
　　６日　商品を60,000円（原価40,000円）で販売し，代金は掛けとした。
　　15日　買掛金のうち30,000円を現金で支払った。
　　20日　売掛金のうち40,000円を現金で回収した。

▼解答欄

日　　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
5／2				
6				
15				
20				

仕　　入

売　　上

買　掛　金

売　掛　金

解答〈11〉ページ

理解度チェック

問題4-3　★★★

次の取引について仕訳し，解答欄の各勘定に転記しなさい。なお，転記にあたっては日付，相手科目，金額を記入すること。また，５月31日までの取引については各勘定に合計額で示してある。

６月２日　仕入先千葉商店より商品100,000円を仕入れ，代金のうち30,000円は現金で支払い，残額は掛けとした。

８日　得意先神奈川商店へ商品を160,000円（原価90,000円）で販売し，代金のうち半額は現金で受け取り，残額は掛けとした。

25日　千葉商店に対する買掛金のうち50,000円を現金で支払った。

30日　神奈川商店に対する売掛金のうち60,000円を現金で回収した。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
6／2				
8				
25				
30				

現　金

50,000	

買掛金

	40,000

売掛金

70,000	

売　上

仕　入

解答〈11〉ページ

理解度チェック

問題4-4　発展★☆☆

次の取引について各設問に従って仕訳をしなさい。

〔設問１〕売掛金勘定および買掛金勘定を設定した場合

〔設問２〕人名勘定を設定した場合

３月２日　仕入先福岡商店より商品25,000円を購入し，代金のうち10,000円は現金で支払い，残額は掛けとした。

19日　仕入先福岡商店に対する買掛金50,000円を現金で支払った。

25日　得意先広島商店に商品70,000円を販売し，代金のうち20,000円は現金で受け取り，残額は掛けとした。

30日　得意先広島商店に対する売掛金35,000円を現金で回収した。

▼解答欄

〔設問１〕売掛金勘定および買掛金勘定を設定した場合

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3／2				
19				
25				
30				

〔設問２〕人名勘定を設定した場合

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3／2				
19				
25				
30				

解答〈12〉ページ

Theme 05 商品売買（Ⅱ）

理解度チェック

問題5-1 ★★★

次の取引について設問ごとに仕訳しなさい。

４月２日　商品400,000円を仕入れ，代金は掛けとした。

10日　４月２日に掛けで仕入れた商品のうち30,000円を傷があったので返品した。

16日　４月２日に掛けで仕入れた商品の一部に品質不良があったので，8,000円の値引きを受けた。

〔設問１〕三分法の場合

〔設問２〕分記法の場合

▼解答欄

〔設問１〕三分法の場合

日　付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／2				
10				
16				

〔設問２〕分記法の場合

日　付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／2				
10				
16				

解答〈13〉ページ

理解度チェック

問題5-2　★★★

次の取引について設問ごとに仕訳しなさい。ただし，勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　　金　　売 掛 金　　商　　品　　売　　上　　商品売買益

４月８日　商品を700,000円（原価420,000円）で売り上げ，代金は掛けとした。

15日　４月８日に売り上げた商品のうち，15,000円（原価9,000円）が品違いのため返品されてきた。

20日　４月８日に売り上げた商品について18,000円の値引きをした。

〔設問１〕三分法の場合

〔設問２〕分記法の場合

▼解答欄

〔設問１〕三分法の場合

日　　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
4／8				
15				
20				

〔設問２〕分記法の場合

日　　付	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
4／8				
15				
20				

解答〈13〉ページ

理解度チェック

問題5-3　★★★

次の取引について仕訳しなさい。なお，商品売買は三分法によること。

(1)　旭川商店から掛けで仕入れていた商品100個（@10,000円）のうち，本日，５分の１を戻し，代金は掛け代金から控除した。

(2)　青森商店へ掛けで販売していた商品50個（原価@7,000円，売価@8,750円）のうち，５個が破損していたため，本日，返品されてきた。

▼解答欄

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

解答〈13〉ページ

理解度チェック

問題5-4　★★★

次の取引について仕訳しなさい。ただし，勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金　売掛金　買掛金　売上　仕入
発送費

(1)　商品400,000円を仕入れ，代金は掛けとした。なお，引取運賃30,000円は現金で支払った。

(2)　商品を700,000円で売り上げ，代金は掛けとした。なお，その際，発送運賃40,000円は現金で支払った。

▼解答欄

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

解答〈13〉ページ

理解度チェック

問題5-5 ★★★

次の取引を仕訳しなさい。ただし，勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　金　　売掛金　　買掛金　　売　上　　仕　入
支払運賃

(1) 仕入先岩手商店から商品10個（@50,000円）を仕入れ，代金のうち200,000円については現金で支払い，残額は掛けとした。なお，引取運賃10,000円については現金で支払った。

(2) 得意先新潟商店に商品600,000円を売り渡し，代金は掛けとした。なお，当店負担の発送運賃4,500円については現金で支払った。

▼解答欄

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

解答〈13〉ページ

理解度チェック

問題5-6 ★☆☆

次の取引を売掛金元帳（静岡商店）に記入し，４月30日付で締め切りなさい。

４月１日　売掛金の前月繰越高　450,000円（内訳：静岡商店300,000円，三重商店150,000円）。

12日　静岡商店に対して販売していた商品の中に不良品があり，25,000円が返品になった。なお，代金は同店に対する売掛金から差し引いた。

24日　静岡商店に商品90,000円，三重商店に商品75,000円をそれぞれ売り渡し，代金は掛けとした。

30日　静岡商店に対する売掛金100,000円，三重商店に対する売掛金80,000円を，それぞれ現金で回収した。

▼解答欄

売　掛　金　元　帳

静　岡　商　店

平成×1年		摘　　要	借　　方	貸　　方	借／貸	残　　高
4	1	前　月　繰　越				
5	1					

解答〈14〉ページ

理解度チェック

問題5-7　★☆☆

次の取引を買掛金元帳（長崎商店）に記入し，４月30日付で締め切りなさい。

４月１日　買掛金の前月繰越高は750,000円である（内訳：長崎商店450,000円，熊本商店300,000円）。

11日　熊本商店および長崎商店から商品をそれぞれ200,000円ずつ仕入れ，代金は掛けとした。

18日　長崎商店から11日に仕入れた商品のうち50,000円は不良品であったので返品した。なお，代金は同店に対する買掛金から差し引いた。

28日　熊本商店に対する買掛金のうち300,000円，長崎商店に対する買掛金のうち400,000円をそれぞれ現金で支払った。

▼解答欄

買　掛　金　元　帳

長　崎　商　店

平成×1年		摘　　要	借　　方	貸　　方	借／貸	残　　高
4	1	前　月　繰　越				
5	1					

解答〈14〉ページ

理解度チェック

問題5-8 ★☆☆

次の取引を仕入帳に記入して，締め切りなさい。なお，赤で記入すべき部分であっても赤鉛筆（ボールペンなど）を用いなくてよい。

3月1日　松山商店から次のとおり仕入れ，代金は掛けとした。

ブラウス　80枚　@ 2,000円　160,000円

12日　松山商店から仕入れた上記の商品のうち，不良品のため次のとおり返品し，代金は買掛金から差し引くことにした。

ブラウス　20枚　@ 2,000円　40,000円

15日　熊本商店から次のとおり仕入れ，代金は掛けとした。

ブラウス　100枚　@ 1,200円　120,000円

Tシャツ　50枚　@ 1,500円　75,000円

29日　熊本商店から次のとおり仕入れ，代金のうち80,000円については現金で支払い，残りは掛けとした。

ブラウス　100枚　@ 1,800円　180,000円

Tシャツ　40枚　@ 1,500円　60,000円

▼解答欄

仕　入　帳

平成×1年		摘要	内訳	金額
3	1	松山商店　掛け		
		ブラウス（　）枚@（　）円		（　）
	12	松山商店　戻し		
		ブラウス（　）枚@（　）円		（　）
	15	熊本商店　掛け		
		ブラウス（　）枚@（　）円	（　）	
		Tシャツ（　）枚@（　）円	（　）	（　）
	29	熊本商店　諸口		
		ブラウス（　）枚@（　）円	（　）	
		Tシャツ（　）枚@（　）円	（　）	（　）
	31	総仕入高		（　）
	〃	（　）		（　）
		（　）		（　）

解答〈14〉ページ

理解度チェック

問題5-9 ★★★

次の仕入帳の記入にもとづいて，各日付の仕訳を示し，該当する勘定へ転記しなさい。ただし，３月29日の仕入代金のうち80,000円は現金で支払い，残額は掛けとした。

仕　入　帳

平成×1年		摘要			内訳	金額
3	1	松山商店		掛け		
		ブラウス	80枚	@2,000円		160,000
	12	松山商店		戻し		
		ブラウス	20枚	@2,000円		40,000
	15	熊本商店		掛け		
		ブラウス	100枚	@1,200円	120,000	
		Tシャツ	50枚	@1,500円	75,000	195,000
	29	熊本商店		諸口		
		ブラウス	100枚	@1,800円	180,000	
		Tシャツ	40枚	@1,500円	60,000	240,000

▼解答欄

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/1				
12				
15				
29				

現金

100,000	

買掛金

	200,000

仕入

解答〈15〉ページ

理解度チェック

問題5-10 ★☆☆

次の取引を売上帳に記入して，締め切りなさい。なお，赤で記入すべき部分であっても赤鉛筆（ボールペンなど）を用いなくてよい。

８月２日　東海商店へ次のとおり売り上げ，代金は掛けとした。

紳士靴　15足　@ 8,000円　120,000円

婦人靴　15足　@12,000円　180,000円

15日　北陸商店へ次のとおり売り上げ，代金は掛けとした。

婦人靴　25足　@12,000円　300,000円

18日　北陸商店へ売り上げた上記の商品のうち，次のとおり返品され，代金は売掛金から差し引くことにした。

婦人靴　10足　@12,000円　120,000円

30日　信越商店へ次のとおり売り上げ，代金のうち200,000円を現金で受け取り，残額は掛けとした。

紳士靴　25足　@ 8,000円　200,000円

婦人靴　15足　@12,000円　180,000円

▼解答欄

売　上　帳

平成×1年		摘要	内訳	金額
8	2	東海商店　掛け		
		紳士靴（　）足@（　　）円	（　　）	
		婦人靴（　）足@（　　）円	（　　）	（　　）
	15	北陸商店　掛け		
		婦人靴（　）足@（　　）円		（　　）
	18	北陸商店　戻り		
		婦人靴（　）足@（　　）円		（　　）
	30	信越商店　諸口		
		紳士靴（　）足@（　　）円	（　　）	
		婦人靴（　）足@（　　）円	（　　）	（　　）
	31	総売上高		（　　）
	〃	（　　）		（　　）
		（　　）		（　　）

解答〈15〉ページ

理解度チェック

問題5-11　★★★

次の取引のうちハンカチ（婦人用）について，先入先出法により商品有高帳の記入を行い，当該商品について６月中の売上高，売上原価および売上総利益を計算しなさい。なお，商品有高帳の締め切りを行う必要はない。

６月１日	前月繰越：	ハンカチ（婦人用）	120枚	@150円	18,000円
		ハンカチ（紳士用）	180枚	@700円	126,000円
６日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	230枚	@150円	34,500円
12日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	150枚	@200円（売価）	30,000円
18日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	100枚	@165円	16,500円
		ハンカチ（紳士用）	170枚	@630円	107,100円
24日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	220枚	@200円（売価）	44,000円
		ハンカチ（紳士用）	290枚	@800円（売価）	232,000円
30日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	40枚	@170円	6,800円
		ハンカチ（紳士用）	120枚	@660円	79,200円

▼解答欄

商品有高帳

（先入先出法）　　ハンカチ（婦人用）

平成×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額

売上原価の計算

月初商品棚卸高　　円
当月商品仕入高　＿＿＿＿＿＿
合　計　　円
月末商品棚卸高　＿＿＿＿＿＿
売上原価　＿＿＿＿＿＿円

売上総利益の計算

売上高　　円
売上原価　＿＿＿＿＿＿
売上総利益　＿＿＿＿＿＿円

解答〈15〉ページ

理解度チェック

問題5-12　★★★

次の取引のうちハンカチ（婦人用）について，移動平均法により商品有高帳の記入を行い，当該商品について６月中の売上高，売上原価および売上総利益を計算しなさい。なお，商品有高帳の締め切りを行う必要はない。

６月１日	前月繰越：	ハンカチ（婦人用）	120枚	@150円	18,000円
		ハンカチ（紳士用）	180枚	@700円	126,000円
６日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	230枚	@150円	34,500円
12日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	150枚	@200円（売価）	30,000円
18日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	100枚	@165円	16,500円
		ハンカチ（紳士用）	170枚	@630円	107,100円
24日	売　　上：	ハンカチ（婦人用）	220枚	@200円（売価）	44,000円
		ハンカチ（紳士用）	290枚	@800円（売価）	232,000円
30日	仕　　入：	ハンカチ（婦人用）	40枚	@170円	6,800円
		ハンカチ（紳士用）	120枚	@660円	79,200円

▼解答欄

商品有高帳

（移動平均法）　　ハンカチ（婦人用）

平成×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額

売上原価の計算

月初商品棚卸高	円
当月商品仕入高	
合　計	円
月末商品棚卸高	
売上原価	円

売上総利益の計算

売上高	円
売上原価	
売上総利益	円

解答〈16〉ページ

理解度チェック

問題5-13 ★★★

次の仕入帳と売上帳にもとづいて，先入先出法によって解答欄の商品有高帳に記入し，１月中の売上高，売上原価および売上総利益を計算しなさい。

仕　入　帳

平成×1年		摘　　要	金　額
1	7	横浜商店　ネクタイ　15本　@6,000円	90,000
	21	茨城商店　ネクタイ　40本　@6,500円	260,000

売　上　帳

平成×1年		摘　　要	金　額
1	14	山口商店　ネクタイ　20本　@8,600円	172,000
	28	山形商店　ネクタイ　20本　@8,800円	176,000

▼解答欄

商品有高帳

先入先出法　　ネクタイ

平成×1年		摘　要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前月繰越	15	6,000	90,000				15	6,000	90,000

売上原価の計算

月初商品棚卸高　　円
当月商品仕入高　＿＿＿＿＿＿
合　計　　円
月末商品棚卸高　＿＿＿＿＿＿
売上原価　＿＿＿＿＿＿円

売上総利益の計算

売上高　　円
売上原価　＿＿＿＿＿＿
売上総利益　＿＿＿＿＿＿円

解答〈16〉ページ

理解度チェック

問題5-14　★★★

東京商店の次の取引について仕訳し，与えられた勘定に転記して合計残高試算表を作成しなさい。ただし，勘定記入は金額だけでよい。なお，９月30日までの取引については各勘定に合計額で示してある。

10月９日　仕入先より商品80,000円を仕入れ，代金は現金で支払った。
　　25日　得意先に商品90,000円（原価70,000円）を販売し，代金は現金で受け取った。
11月13日　手数料6,000円を現金で受け取った。
12月25日　地代38,000円，利息12,000円および雑費1,000円を現金で支払った。

▼解答欄

日　付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
10/ 9				
25				
11/13				
12/25				

現　金

400,000	145,000

建　物

150,000	

仕　入

115,000	

支払地代

借入金

30,000	70,000

資本金

	350,000

売　上

	130,000

受取手数料

雑　費

支　払　利　息

合計残高試算表

平成×1年12月31日

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
		現金		
		建物		
		借入金		
		資本金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		支払地代		
		支払利息		
		雑費		

解答〈17〉ページ

MEMO

解答編

合格トレーニング

日商簿記 3 級

Theme 01 簿記の基礎

問題1-1

①	②	③	④
財　政	経　営	損益計算書	貸借対照表

解答への道

貸借対照表（Balance Sheet：B/S）は，企業の期末における財政状態を明らかにする報告書です。

損益計算書（Profit and Loss Statement：P/L）は，企業の一会計期間における経営成績を明らかにする報告書です。

問題1-2

①	②	③	④	⑤
a	b	b	a	a
⑥	⑦	⑧	⑨	
a	a	c	a	

解答への道

簿記の５要素は重要なので十分に理解しなければなりません。以下，資産・負債・純資産（資本）とそれぞれに属する勘定の意味を示します。

⑴　資産…企業が所有する物，権利（債権）

現　　金：通貨（硬貨と紙幣），通貨代用証券など
売 掛 金：商品を代金後払い（掛け）で販売した場合に生ずる商品代金を後日受け取る権利
繰 越 商 品：期首（期末）在庫商品の原価
貸 付 金：金銭を取引先などに貸し付けた場合に生ずる後日返済を受ける権利
建　　物：営業用の事務所・店舗・倉庫など
備　　品：営業用の机・いす・陳列棚・応接セット・各種の事務機器など
車両運搬具：営業用のトラック・乗用車・オートバイなど
土　　地：事務所・倉庫など営業用資産の敷地

⑵　負債…将来返済しなければならない義務（債務）

買 掛 金：商品を代金後払い（掛け）で仕入れた場合に生ずる商品代金を後日支払うべき義務
借 入 金：金銭を銀行などから借り入れた場合に生ずる後日返済すべき義務

⑶　純資産（資本）…事業主（または株主）が出資した分およびその増加分

資 本 金：正味財産額

問題1-3

①	②	③	④	⑤
d	e	e	d	e
⑥	⑦	⑧	⑨	
d	d	d	d	

解答への道

以下，費用・収益とそれぞれに属する勘定の意味を示します。

⑴　費用…収益を得るために使われた物および労働力

仕　　入：販売するための商品の仕入高（原価）
給　　料：従業員に対する給料の支払額
広 告 費：新聞広告・チラシ・看板などにかかる費用の支払額
交 通 費：通常の電車代・バス代などの支払額
光 熱 費：電気代・ガス代などの支払額
通 信 費：電話代・切手代・はがき代などの支払額
支払保険料：保険料の支払額
支 払 地 代：土地の賃借による地代の支払額
支 払 家 賃：建物の賃借による家賃の支払額
支 払 利 息：借入金などに対する利子（利息）の支払額
支払手数料：手数料の支払額
雑　　費：上記以外の費用の支払額

⑵　収益…物および労働力を提供して得た対価

売　　上：商品の販売高（売価）
受 取 利 息：銀行預金・貸付金などに対する利息の受取額
受取手数料：手数料の受取額
受 取 地 代：土地の貸付けによる地代の受取額
受 取 家 賃：建物の貸付けによる家賃の受取額

問題1-4

貸借対照表

東京商店　平成×2年12月31日　（単位：円）

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	200,000	借入金	400,000
貸付金	50,000	資本金	500,000
建物	300,000	当期純利益	100,000
土地	450,000		
	1,000,000		1,000,000

解答への道

資産に属する科目を左側（借方）に，負債・純資産（資本）に属する科目を右側（貸方）に記載します。

問題1-5

損益計算書

大阪商店　平成×3年１月１日から平成×3年12月31日　（単位：円）

費用	金額	収益	金額
給料	450,000	受取手数料	550,000
通信費	150,000	受取家賃	250,000
光熱費	120,000		
支払手数料	30,000		
（当期純利益）	(50,000)		
	800,000		800,000

解答への道

費用に属する科目を左側（借方）に，収益に属する科目を右側（貸方）に記載し，左側（借方）の合計と右側（貸方）の合計の差額から，当期純利益を算定します。

問題1-6

	期首			期末			収益	費用	純損益
	資産	負債	純資産	資産	負債	純資産			
1	25,000	(1,000)	(24,000)	30,000	(5,000)	25,000	9,000	(8,000)	1,000
2	60,000	(15,000)	45,000	55,000	12,000	(43,000)	(20,000)	22,000	(△ 2,000)
3	(43,000)	26,000	17,000	(39,000)	20,000	(19,000)	(16,000)	14,000	2,000

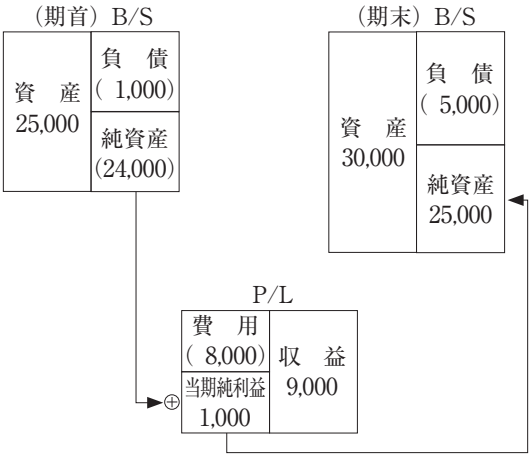
解答への道

純損益（当期純利益または当期純損失）の計算方法には次の２つがあり，両者の結果は一致します。

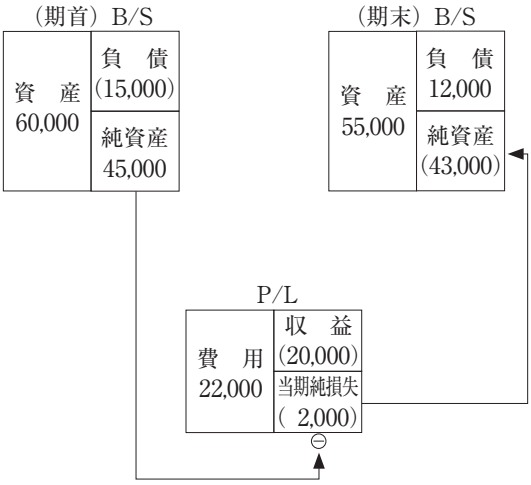
財産法：期末純資産（資本）－期首純資産（資本）＝当期純利益（マイナスの場合は当期純損失）

損益法：収益－費用＝当期純利益（マイナスの場合は当期純損失）

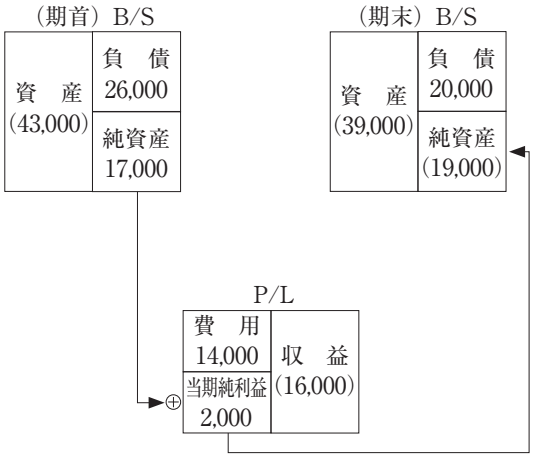
1.


（期首）B/S
資　産
25,000
負　債
(1,000)
純資産
(24,000)
（期末）B/S
資　産
30,000
負　債
(5,000)
純資産
25,000
P/L
費　用
(8,000)
当期純利益
1,000
収　益
9,000

2.


（期首）B/S
資　産
60,000
負　債
(15,000)
純資産
45,000
（期末）B/S
資　産
55,000
負　債
12,000
純資産
(43,000)
P/L
費　用
22,000
収　益
(20,000)
当期純損失
(2,000)

3.


（期首）B/S
資　産
(43,000)
負　債
26,000
純資産
17,000
（期末）B/S
資　産
(39,000)
負　債
20,000
純資産
(19,000)
P/L
費　用
14,000
当期純利益
2,000
収　益
(16,000)

Theme 02 日常の手続き（Ⅰ）

問題2-1

(1)	A	1	B	1	(2)	A	4	B	1	(3)	A	6	B	2
(4)	A	2	B	2	(5)	A	1	B	1	(6)	A	5	B	1

解答への道

取引をそれぞれ５要素の増減になおし，各勘定のどちら側に記入するか決めます。

資産の勘定

（借　方）	（貸　方）
⊕	⊖

負債の勘定

（借　方）	（貸　方）
⊖	⊕

純資産（資本）の勘定

（借　方）	（貸　方）
⊖	⊕

費用の勘定

（借　方）	（貸　方）
⊕	⊖

収益の勘定

（借　方）	（貸　方）
⊖	⊕

問題2-2

(1) 1 と 2 に記入する。
(2) 1 と 10 に記入する。
(3) 1 と 6 に記入する。
(4) 3 と 2 に記入する。
(5) 7 と 2 に記入する。
（注）記入された数字は逆でも正解です。

解答への道

取引を分解して，それぞれ５要素の増減になおし，記入場所を決めます。

(1) （土　　地）という資産の増加 … 1
　　（現　　金）という資産の減少 … 2
(2) （現　　金）という資産の増加 … 1
　　（受取家賃）という収益の発生 … 10
(3) （現　　金）という資産の増加 … 1
　　（資 本 金）という純資産（資本）の増加 … 6
(4) （借 入 金）という負債の減少 … 3
　　（現　　金）という資産の減少 … 2
(5) （支払利息）という費用の発生 … 7
　　（現　　金）という資産の減少 … 2

問題2-3

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／1	現　　金	500,000	資 本 金	500,000
5	現　　金	100,000	借 入 金	100,000
10	広 告 費	20,000	現　　金	20,000
20	給　　料	30,000	現　　金	30,000
30	借 入 金	60,000	現　　金	64,200
	支 払 利 息	4,200		

解答への道

4／1 （現　　金）という資産の増加 … 借方
　　（資 本 金）という純資産(資本)の増加 … 貸方
5 （現　　金）という資産の増加 … 借方
　　（借 入 金）という負債の増加 … 貸方
10 （広 告 費）という費用の発生 … 借方
　　（現　　金）という資産の減少 … 貸方
20 （給　　料）という費用の発生 … 借方
　　（現　　金）という資産の減少 … 貸方
30 （借 入 金）という負債の減少 … 借方
　　（支 払 利 息）という費用の発生 … 借方
　　（現　　金）という資産の減少 … 貸方

問題2-4

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
1／1	現　　金	800,000	資 本 金	800,000
4	備　　品	250,000	現　　金	250,000
8	貸 付 金	140,000	現　　金	140,000
10	現　　金	5,000	受取手数料	5,000
18	現　　金	41,600	貸 付 金	40,000
			受 取 利 息	1,600
25	支 払 家 賃	75,000	現　　金	90,000
	通 信 費	15,000		

解答への道

1／1	（現　　金）	という資産の増加 … 借方
	（資　本　金）	という純資産（資本）の増加 … 貸方
4	（備　　品）	という資産の増加 … 借方
	（現　　金）	という資産の減少 … 貸方
8	（貸　付　金）	という資産の増加 … 借方
	（現　　金）	という資産の減少 … 貸方
10	（現　　金）	という資産の増加 … 借方
	（受取手数料）	という収益の発生 … 貸方
18	（現　　金）	という資産の増加 … 借方
	（貸　付　金）	という資産の減少 … 貸方
	（受 取 利 息）	という収益の発生 … 貸方
25	（支 払 家 賃）	という費用の発生 … 借方
	（通　信　費）	という費用の発生 … 借方
	（現　　金）	という資産の減少 … 貸方

Theme 03 日常の手続き（Ⅱ）

問題3-1

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／1	現　　金	700,000	資　本　金	700,000
10	現　　金	200,000	借　入　金	200,000
20	広　告　費	50,000	現　　金	50,000
25	給　　料	100,000	現　　金	100,000
30	借　入　金 支 払 利 息	50,000 1,000	現　　金	51,000

現　　金

4／1	資本金	700,000	4／20	広告費	50,000
10	借入金	200,000	25	給　料	100,000
			30	諸　口	51,000

借　入　金

4／30	現　金	50,000	4／10	現　金	200,000

資　本　金

			4／1	現　金	700,000

給　　料

4／25	現　金	100,000

広　告　費

4／20	現　金	50,000

支 払 利 息

4／30	現　金	1,000

解答への道

4／30の現金勘定への転記は，相手科目が複数ですから「諸口」となります。

問題3-2

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
7／1	現　　金	600,000	資　本　金	600,000
6	備　　品	250,000	現　　金	250,000
11	貸　付　金	50,000	現　　金	50,000
17	現　　金	10,000	受取手数料	10,000
25	支 払 家 賃 水道光熱費	82,000 5,000	現　　金	87,000
31	現　　金	32,000	貸　付　金 受 取 利 息	30,000 2,000

現　　金

7／1	資本金	600,000	7／6	備　品	250,000
17	受取手数料	10,000	11	貸付金	50,000
31	諸　口	32,000	25	諸　口	87,000

貸　付　金

7／11	現　金	50,000	7／31	現　金	30,000

備　　品

7／6	現　金	250,000

資　本　金

			7／1	現　金	600,000

受 取 利 息

			7／31	現　金	2,000

受取手数料

			7／17	現　金	10,000

支 払 家 賃

7／25	現　金	82,000

水道光熱費

7／25	現　金	5,000

問題3-3

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
8／1	現　　金	796,800	借 入 金	800,000
	支払利息	3,200		
15	土　　地	300,000	現　　金	400,000
	建　　物	100,000		
20	貸 付 金	200,000	受取利息	1,600
			現　　金	198,400

現　　金

8／1	借入金	796,800	8／15	諸　口	400,000
			20	貸付金	198,400

貸 付 金

8／20	諸　口	200,000			

建　　物

8／15	現　金	100,000			

土　　地

8／15	現　金	300,000			

支 払 利 息

8／1	借入金	3,200			

借 入 金

			8／1	諸　口	800,000

受 取 利 息

			8／20	貸付金	1,600

問題3-4

（摘要欄の小書きは不要）　仕　訳　帳　3ページ

平成×1年		摘　要	元丁	借　方	貸　方
		前ページから		500,000	500,000
4	1	(貸 付 金)	7	500,000	
		(現　金)	1		500,000
	30	(現　金) 諸　口	1	204,000	
		(貸 付 金)	7		200,000
		(受取利息)	25		4,000

総　勘　定　元　帳

現　　金　1

平成×1年		摘　要	仕丁	借　方	平成×1年		摘　要	仕丁	貸　方
4	30	諸　口	3	204,000	4	1	貸付金	3	500,000

貸　付　金　7

平成×1年		摘　要	仕丁	借　方	平成×1年		摘　要	仕丁	貸　方
4	1	現　金	3	500,000	4	30	現　金	3	200,000

受　取　利　息　25

平成×1年		摘　要	仕丁	借　方	平成×1年		摘　要	仕丁	貸　方
					4	30	現　金	3	4,000

問題3-5

合 計 残 高 試 算 表
平成×1年12月31日

借方 残高	借方 合計	勘定科目	貸方 合計	貸方 残高
220,000	496,000	現　　金	276,000	
150,000	150,000	建　　物		
	30,000	借 入 金	70,000	40,000
		資 本 金	350,000	350,000
		売　　上	220,000	220,000
		受取手数料	6,000	6,000
195,000	195,000	仕　　入		
38,000	38,000	支 払 地 代		
12,000	12,000	支 払 利 息		
1,000	1,000	雑　　費		
616,000	922,000		922,000	616,000

解答への道

おのおのの勘定の借方合計額を試算表の借方合計欄へ，貸方の合計額を貸方合計欄へ記入し，残高を算定します。なお，借方・貸方の合計欄の合計額は一致します。また，借方・貸方の残高欄の合計額も一致します。

問題3-6

合 計 残 高 試 算 表

平成×1年12月31日

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
363,500	1,024,500	現金	661,000	
80,000	150,000	貸付金	70,000	
200,000	200,000	建物		
		資本金	500,000	500,000
		売上	450,000	450,000
		受取利息	4,500	4,500
270,000	270,000	仕入		
30,000	30,000	給料		
11,000	11,000	雑費		
954,500	1,685,500		1,685,500	954,500

Theme 04 商品売買（Ⅰ）

問題4-1

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／2	仕　　入	30,000	現　　金	30,000
5	現　　金	41,000	売　　上	41,000

仕　　入

4／2	現　金	30,000			

売　　上

			4／5	現　金	41,000

解答への道

三分法では，売上高が売上勘定の貸方に売価で示されます。

問題4-2

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
5／2	仕　　入	50,000	買　掛　金	50,000
6	売　掛　金	60,000	売　　上	60,000
15	買　掛　金	30,000	現　　金	30,000
20	現　　金	40,000	売　掛　金	40,000

仕　　入

5／2	買掛金	50,000			

買　掛　金

5／15	現　金	30,000	5／2	仕　入	50,000

売　　上

			5／6	売掛金	60,000

売　掛　金

5／6	売　上	60,000	5／20	現　金	40,000

問題4-3

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
6／2	仕　　入	100,000	現　　金 買　掛　金	30,000 70,000
8	現　　金 売　掛　金	80,000 80,000	売　　上	160,000
25	買　掛　金	50,000	現　　金	50,000
30	現　　金	60,000	売　掛　金	60,000

現　　金

		50,000	6／2	仕　入	30,000
6／8	売　上	80,000	25	買掛金	50,000
30	売掛金	60,000			

売　掛　金

		70,000	6／30	現　金	60,000
6／8	売　上	80,000			

仕　　入

6／2	諸　口	100,000			

買　掛　金

6／25	現　金	50,000			40,000
			6／2	仕　入	70,000

売　　上

			6／8	諸　口	160,000

問題4-4

〔設問１〕売掛金勘定および買掛金勘定を設定した場合

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3／2	仕　　入	25,000	現　　金 買 掛 金	10,000 15,000
19	買 掛 金	50,000	現　　金	50,000
25	現　　金 売 掛 金	20,000 50,000	売　　上	70,000
30	現　　金	35,000	売 掛 金	35,000

〔設問２〕人名勘定を設定した場合

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3／2	仕　　入	25,000	現　　金 福 岡 商 店	10,000 15,000
19	福 岡 商 店	50,000	現　　金	50,000
25	現　　金 広 島 商 店	20,000 50,000	売　　上	70,000
30	現　　金	35,000	広 島 商 店	35,000

解答への道

掛け取引について，人名勘定を使用しているときは売掛金勘定，買掛金勘定に代えて，その商店名を勘定科目として使います。

Theme 05 商品売買（Ⅱ）

問題5-1

〔設問1〕三分法の場合

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／2	仕　　入	400,000	買　掛　金	400,000
10	買　掛　金	30,000	仕　　入	30,000
16	買　掛　金	8,000	仕　　入	8,000

〔設問2〕分記法の場合

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／2	商　　品	400,000	買　掛　金	400,000
10	買　掛　金	30,000	商　　品	30,000
16	買　掛　金	8,000	商　　品	8,000

問題5-2

〔設問1〕三分法の場合

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／8	売　掛　金	700,000	売　　上	700,000
15	売　　上	15,000	売　掛　金	15,000
20	売　　上	18,000	売　掛　金	18,000

〔設問2〕分記法の場合

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4／8	売　掛　金	700,000	商　　品	420,000
			商品売買益	280,000
15	商　　品	9,000	売　掛　金	15,000
	商品売買益	6,000		
20	商品売買益	18,000	売　掛　金	18,000

解答への道

分記法の場合：

4／8　商品を販売したときは，資産の減少として商品勘定の貸方に原価を記入し，売価との差額を収益の増加として商品売買益勘定の貸方に記入します。

15　販売時の仕訳の逆仕訳をします。

20　販売した商品に対する値引きは，利益の減少なので，商品売買益勘定の借方に記入します。

問題5-3

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
(1)	買　掛　金	200,000	仕　　入	200,000
(2)	売　　上	43,750	売　掛　金	43,750

解答への道

(1)　@10,000円×100個×$\frac{1}{5}$＝200,000円

(2)　@8,750円〈売価〉×5個＝43,750円

問題5-4

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
(1)	仕　　入	430,000	買　掛　金	400,000
			現　　金	30,000
(2)	売　掛　金	700,000	売　　上	700,000
	発　送　費	40,000	現　　金	40,000

解答への道

(1)　引取運賃などの仕入諸掛りは商品代金の一部と考えて，仕入原価に加算します。三分法では仕入勘定（費用）に含めて処理します。

(2)　発送運賃などの売上諸掛りは，勘定指定により発送費勘定（費用）で処理します。

問題5-5

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
(1)	仕　　入	510,000	買　掛　金	300,000
			現　　金	210,000
(2)	売　掛　金	600,000	売　　上	600,000
	支払運賃	4,500	現　　金	4,500

問題5-6

売掛金元帳
静岡商店

平成×1年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
4	1	前月繰越	300,000		借	300,000
	12	返品		25,000	〃	275,000
	24	売上	90,000		〃	365,000
	30	回収		100,000	〃	265,000
	(〃)	(次月繰越)		(265,000)		
			390,000	390,000		
5	1	前月繰越	265,000		借	265,000

解答への道

本問では，売掛金元帳のうち静岡商店のみについて記入が求められているので，三重商店に関する取引を記入しないように注意しましょう。

以下，本問での取引について仕訳を示しておきます。

4/1　前月繰越　静岡商店 300,000円，三重商店 150,000円
12　(売上) 25,000　(売掛金・静岡) 25,000
24　(売掛金・静岡) 90,000　(売上) 165,000
　(売掛金・三重) 75,000
30　(現金) 180,000　(売掛金・静岡) 100,000
　(売掛金・三重) 80,000

なお，参考として売掛金勘定と売掛金元帳の関係をT勘定で示しておきます。

売掛金

4/1 繰越	450,000	4/12	25,000
24	165,000	30	180,000

静岡商店

4/1 繰越	300,000	4/12	25,000
24	90,000	30	100,000

三重商店

4/1 繰越	150,000	4/30	80,000
24	75,000		

売掛金元帳

問題5-7

買掛金元帳
長崎商店

平成×1年		摘要	借方	貸方	借/貸	残高
4	1	前月繰越		450,000	貸	450,000
	11	仕入		200,000	〃	650,000
	18	返品	50,000		〃	600,000
	28	支払	400,000		〃	200,000
	(30)	(次月繰越)	(200,000)			
			650,000	650,000		
5	1	前月繰越		200,000	貸	200,000

解答への道

本問では，買掛金元帳のうち長崎商店のみについて記入が求められているので，熊本商店に関する取引を記入しないように注意しましょう。

以下，本問での取引について仕訳を示しておきます。

4/1　前月繰越　長崎商店 450,000円，熊本商店 300,000円
11　(仕入) 400,000　(買掛金・熊本) 200,000
　(買掛金・長崎) 200,000
18　(買掛金・長崎) 50,000　(仕入) 50,000
28　(買掛金・熊本) 300,000　(現金) 700,000
　(買掛金・長崎) 400,000

問題5-8

仕入帳

平成×1年		摘要	内訳	金額
3	1	松山商店　掛け		
		ブラウス (80)枚 @(2,000)円		(160,000)
	12	松山商店　戻し		
		ブラウス (20)枚 @(2,000)円		(40,000)
	15	熊本商店　掛け		
		ブラウス (100)枚 @(1,200)円	(120,000)	
		Tシャツ (50)枚 @(1,500)円	(75,000)	(195,000)
	29	熊本商店　諸口		
		ブラウス (100)枚 @(1,800)円	(180,000)	
		Tシャツ (40)枚 @(1,500)円	(60,000)	(240,000)
	31	総仕入高		(595,000)
	〃	(仕入戻し高)		(40,000)
		(純仕入高)		(555,000)

問題5-9

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3／1	仕　　入	160,000	買　掛　金	160,000
12	買　掛　金	40,000	仕　　入	40,000
15	仕　　入	195,000	買　掛　金	195,000
29	仕　　入	240,000	現　　金 買　掛　金	80,000 160,000

現　　金

		100,000	3／29	仕　入	80,000

仕　　入

3／1	買掛金	160,000	3／12	買掛金	40,000
15	買掛金	195,000			
29	諸　口	240,000			

買　掛　金

3／12	仕　入	40,000			200,000
			3／1	仕　入	160,000
			15	仕　入	195,000
			29	仕　入	160,000

問題5-10

売　上　帳

平成×1年		摘　　要	内　　訳	金　　額
8	2	東海商店　　掛け		
		紳士靴（15）足　@（8,000）円	（120,000）	
		婦人靴（15）足　@（12,000）円	（180,000）	（300,000）
	15	北陸商店　　掛け		
		婦人靴（25）足　@（12,000）円		（300,000）
	18	北陸商店　　戻り		
		婦人靴（10）足　@（12,000）円		（120,000）
	30	信越商店　　諸口		
		紳士靴（25）足　@（8,000）円	（200,000）	
		婦人靴（15）足　@（12,000）円	（180,000）	（380,000）
	31	総売上高		（980,000）
	〃	（売上戻り高）		（120,000）
		（純売上高）		（860,000）

問題5-11

商　品　有　高　帳

（先入先出法）　　ハンカチ（婦人用）

平成×1年		摘　要	受入高			払出高			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1	①前月繰越	120	150	18,000				120	150	18,000
	6	仕　入	230	150	34,500				350	②150	52,500
	12	売　上				150	150	22,500	200	150	30,000
	18	仕　入	100	165	16,500				200	③150	30,000
									100	③165	16,500
	24	売　上				200	④150	30,000			
						20	④165	3,300	80	165	13,200
	30	仕　入	40	170	6,800				80	165	13,200
									40	170	6,800

売上原価の計算

月初商品棚卸高	18,000円
当月商品仕入高	57,800
合　計	75,800円
月末商品棚卸高	20,000
売上原価	55,800円

売上総利益の計算

売　上　高	74,000円
売上原価	55,800
売上総利益	18,200円

解答への道

〈商品有高帳の記入〉

商品有高帳に売価を記入することはありません。売上時には払出高欄へ記入を行いますが，売価ではなく原価（いくらで仕入れた商品が払い出されたのか）を記入することに注意します。

（先入先出法）

① 前月繰越は，受入高欄にも記入します。

② 仕入単価が同じ場合は，まとめて記入します。

③ 仕入単価が異なるときは，残高欄に区別して記入します。

④ 6月18日の残高のうち先に仕入れた単価150円の商品から払い出し，不足分を後に仕入れた単価165円の商品から払い出したとして記入します。

〈売上高・売上原価の計算〉

商　品　有　高　帳

月初商品棚卸高		売上原価	
6／1	18,000円	6／12	22,500円
当月商品仕入高		24	33,300円
6／6	34,500円		55,800円
18	16,500円	月末商品棚卸高	
30	6,800円		20,000円
	57,800円		

① 商品有高帳の払出高欄の合計額が売上原価（販売した商品の原価）となります。

② 売上高は売上取引の合計額です。

30,000円(6/12) + 44,000円(6/24) = 74,000円

問題5-12

商　品　有　高　帳

（移動平均法）　　ハンカチ（婦人用）

平成×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1	前月繰越	120	150	18,000				120	150	18,000
	6	仕入	230	150	34,500				350	150	52,500
	12	売上				150	①150	22,500	200	150	30,000
	18	仕入	100	165	16,500				300	②155	46,500
	24	売上				220	③155	34,100	80	155	12,400
	30	仕入	40	170	6,800				120	④160	19,200

売上原価の計算

月初商品棚卸高	18,000円
当月商品仕入高	57,800
合計	75,800円
月末商品棚卸高	19,200
売上原価	56,600円

売上総利益の計算

売上高	74,000円
売上原価	56,600
売上総利益	17,400円

解答への道

〈商品有高帳の記入〉

（移動平均法）

① 6月6日の残高欄の単価を用います。

② 平均単価を計算します。

$$\frac{30,000円+16,500円}{200枚+100枚}=155円/枚$$

③ 6月18日の残高欄の単価を用います。

④ 平均単価を計算します。

$$\frac{12,400円+6,800円}{80枚+40枚}=160円/枚$$

〈売上高・売上原価の計算〉

商　品　有　高　帳

月初商品棚卸高		売上原価	
6/1	18,000円	6/12	22,500円
当月商品仕入高		24	34,100円
6/6	34,500円		56,600円
18	16,500円	月末商品棚卸高	
30	6,800円		19,200円
	57,800円		

① 商品有高帳の払出高欄の合計額が売上原価（販売した商品の原価）となります。

② 売上高は売上取引の合計額です。

30,000円(6/12) + 44,000円(6/24) = 74,000円

問題5-13

商　品　有　高　帳

先入先出法　　ネ　ク　タ　イ

平成×1年		摘要	受入高			払出高			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前月繰越	15	6,000	90,000				15	6,000	90,000
	7	仕入	15	6,000	90,000				30	6,000	180,000
	14	売上				20	6,000	120,000	10	6,000	60,000
	21	仕入	40	6,500	260,000				10	6,000	60,000
									40	6,500	260,000
	28	売上				10	6,000	60,000			
						10	6,500	65,000	30	6,500	195,000

売上原価の計算

月初商品棚卸高	90,000円
当月商品仕入高	350,000
合計	440,000円
月末商品棚卸高	195,000
売上原価	245,000円

売上総利益の計算

売上高	348,000円
売上原価	245,000
売上総利益	103,000円

解答への道

仕入帳・売上帳の記入内容から，日付順に商品有高帳に記入していきます。

〈商品有高帳の記入〉

1月21日の残高のうち先に仕入れた単価6,000円の商品から払い出し，不足分を後に仕入れた単価6,500円の商品を払い出したとして記入します。

〈売上高・売上原価の計算〉

商　品　有　高　帳

月初商品棚卸高		売上原価	
1/1	90,000円	1/14	120,000円
当月商品仕入高		1/28	125,000円
1/7	90,000円		245,000円
1/21	260,000円	月末商品棚卸高	
	350,000円		195,000円

① 商品有高帳の払出高欄の合計額が売上原価（販売した商品の原価）となります。

② 売上高は売上帳により求めます。

172,000円(1/14) + 176,000円(1/28) = 348,000円

問題5-14

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
10/ 9	仕　　入	80,000	現　　金	80,000
25	現　　金	90,000	売　　上	90,000
11/13	現　　金	6,000	受取手数料	6,000
12/25	支払地代	38,000	現　　金	51,000
	支払利息	12,000		
	雑　　費	1,000		

現　　金

400,000	145,000
90,000	80,000
6,000	51,000

建　　物

150,000	

仕　　入

115,000	
80,000	

支払地代

38,000	

支払利息

12,000	

借入金

30,000	70,000

資本金

	350,000

売　　上

	130,000
	90,000

受取手数料

	6,000

雑　　費

1,000	

合計残高試算表

平成×1年12月31日

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
220,000	496,000	現　　金	276,000	
150,000	150,000	建　　物		
	30,000	借入金	70,000	40,000
		資本金	350,000	350,000
		売　　上	220,000	220,000
		受取手数料	6,000	6,000
195,000	195,000	仕　　入		
38,000	38,000	支払地代		
12,000	12,000	支払利息		
1,000	1,000	雑　　費		
616,000	922,000		922,000	616,000

資格の学校
TAC